

「とくしまの青少年に関する意識調査」について

1. 調査の目的

「徳島県の青少年の意識」について、青少年自身と成人の意識調査を行い、青少年の生活の実態、社会や生き方等についての考えを把握し、比較分析することにより、未来の徳島県を中心となって支える、心豊かでたくましい青少年の育成を図るための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査項目

- 1 自分について（問 1～問 7）
- 2 家庭・家族について（問 8～問 9）
- 3 学校生活について（問 10～問 11）
- 4 地域づくり・地域への愛着について（問 12～問 16）
- 5 国際交流について（問 17～問 18）
- 6 就労への意識について（問 19～問 20）
- 7 SNS・スマートフォンについて（問 21～問 24）
- 8 青少年の健全育成について（問 25～問 26）
- 9 生きづらさについて（問 27～問 30）

3. 調査方法

(1) 調査地域

徳島県全域

(2) 調査対象者

徳島県内の青少年及び成人

- ・ 青少年 12～22 歳の男女
- ・ 成人 23 歳以上の男女

(3) 調査期間

平成 28 年 5 月上旬から 6 月下旬まで

(4) 調査票の送付・回収方法

郵送法

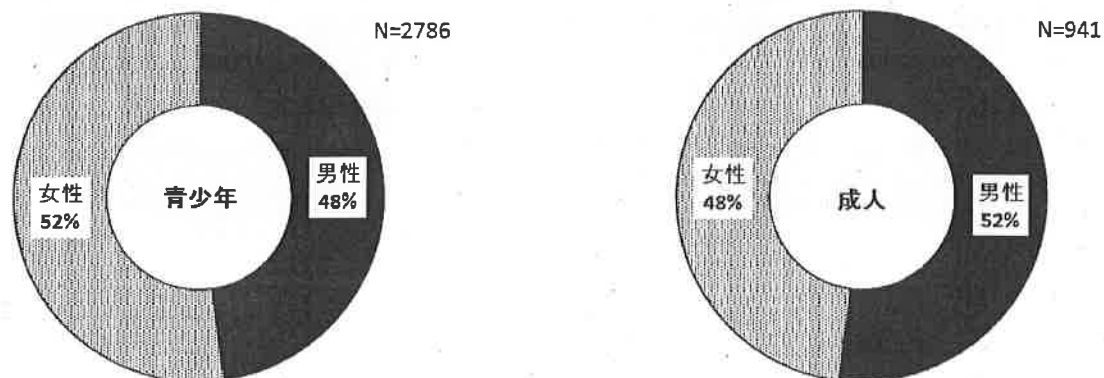
（なお、12～18 歳の青少年については、教育委員会の協力をいただき、中学校及び高等学校において直接回収を行った。）

4. 回答状況

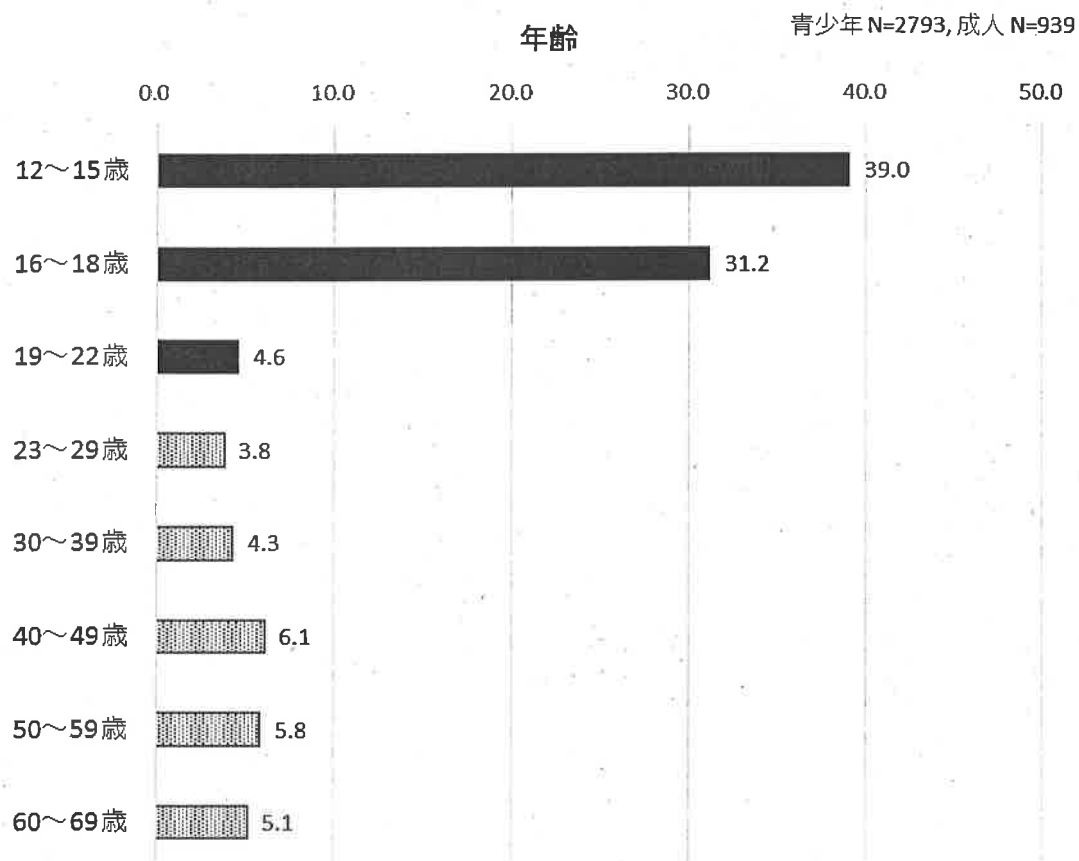
	送付数	回答数	回答率
青少年	3,200 人	2,805 人	90.5 %
成人	2,100 人	951 人	45.3 %
計	5,300 人	3,756 人	70.9 %

【 調査対象の属性 】

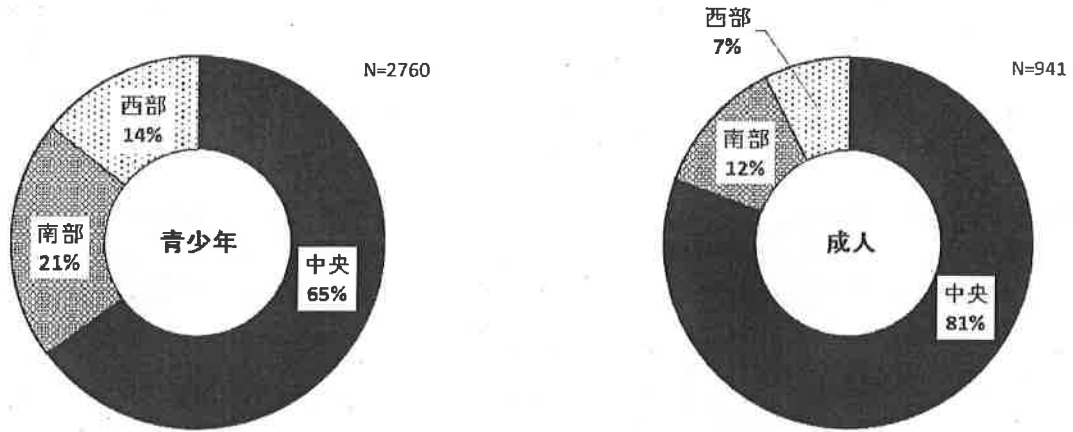
(1) 性別



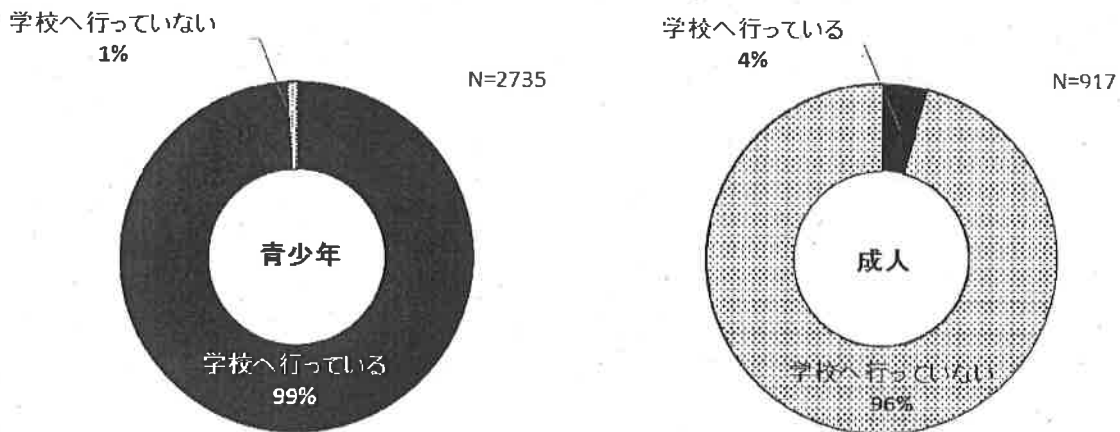
(2) 年齢別



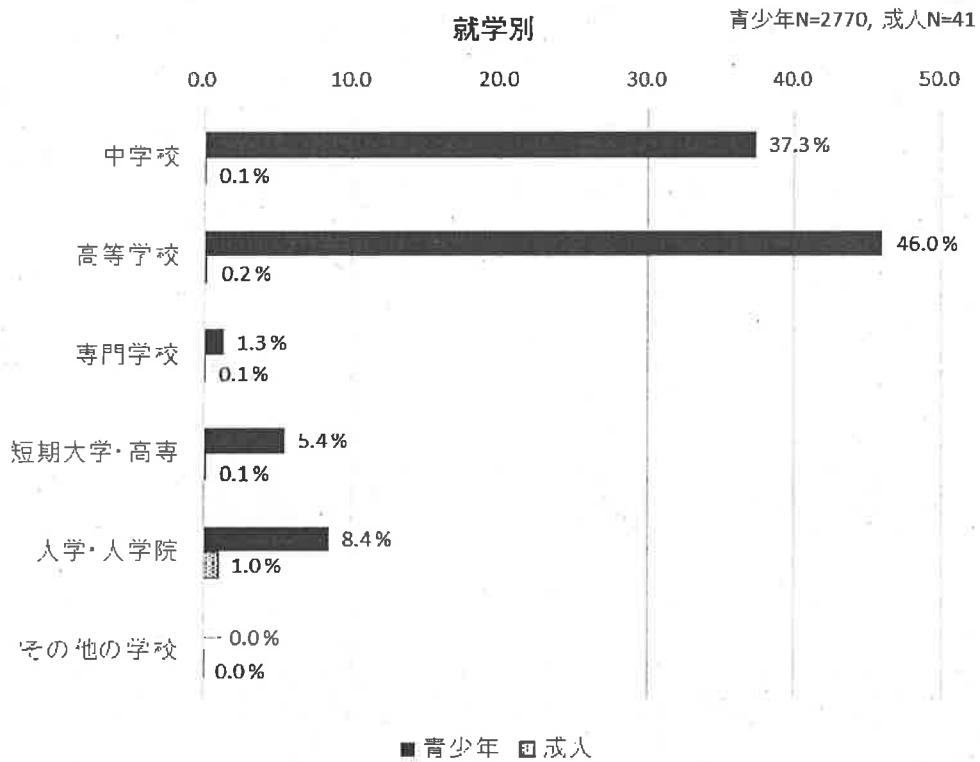
(3) 地域別



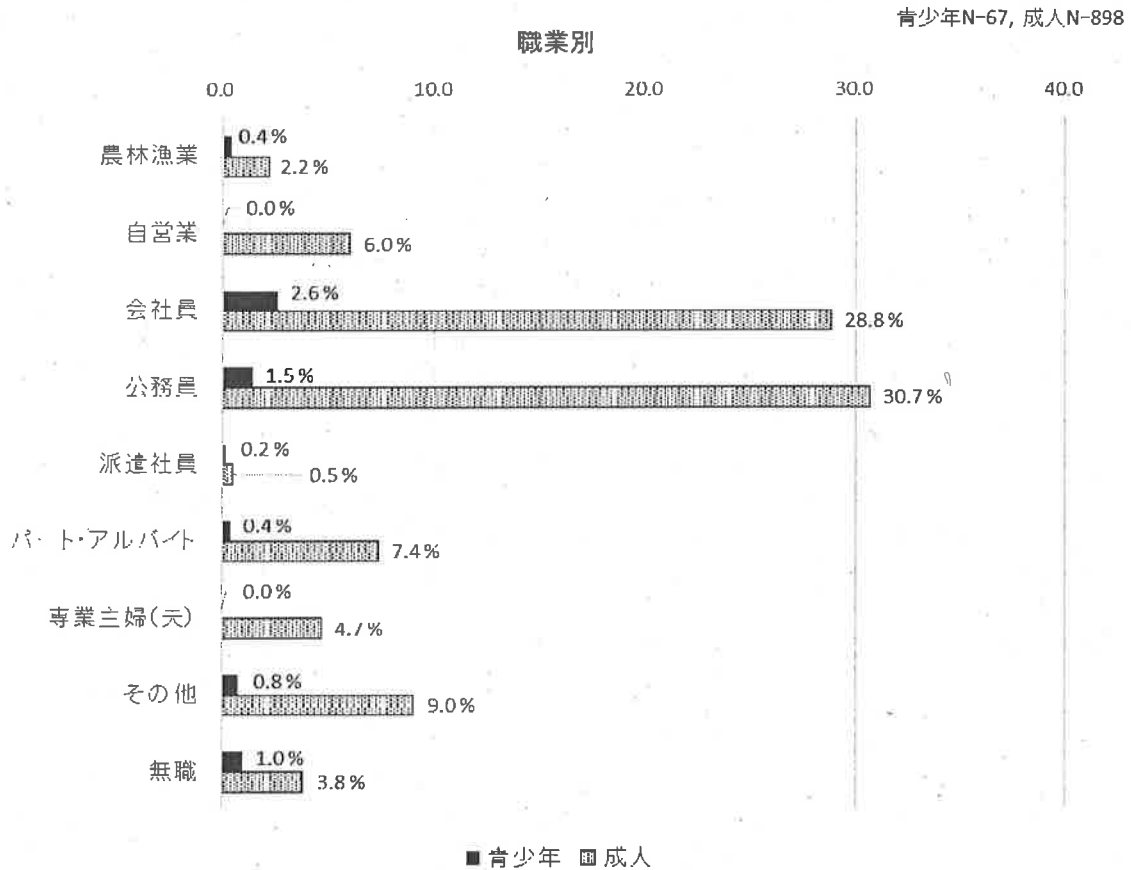
(4) 通学の有無



(5) 就学別



(6) 職業別

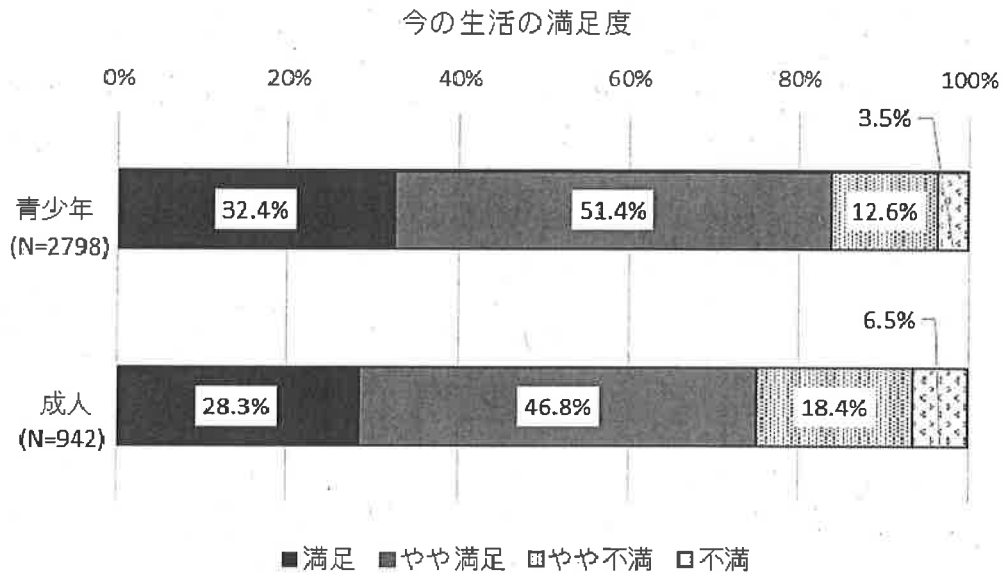


【 調査結果 】

自分について

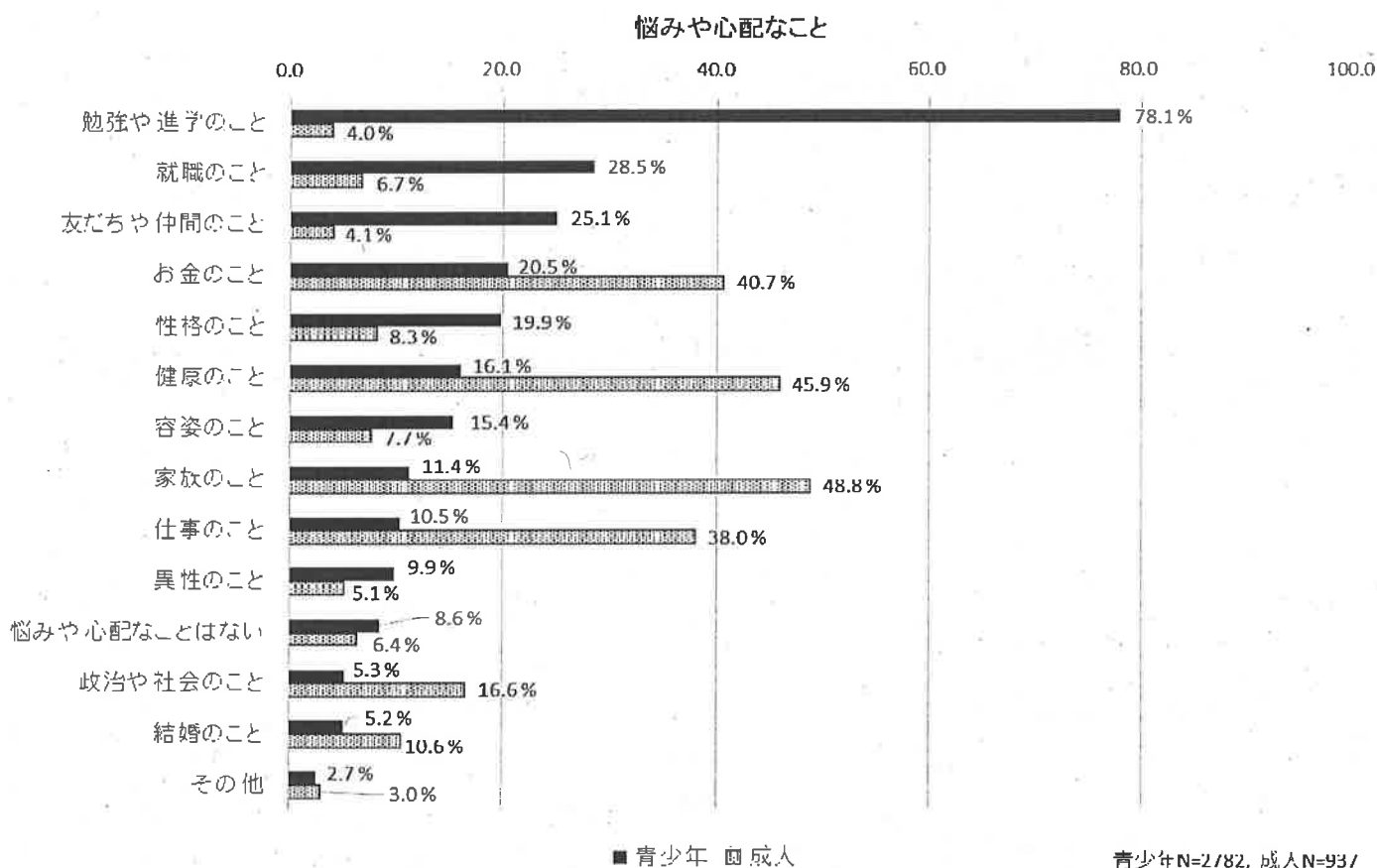
1. 生活の満足度（青少年 問1、成人 問1）

今の生活の満足度について、今の生活に「満足」と「やや満足」を合わせた満足層が、青少年・成人ともに8割前後となっており（青少年83.8%、成人75.1%）、今の生活に比較的満足しているという結果となった。



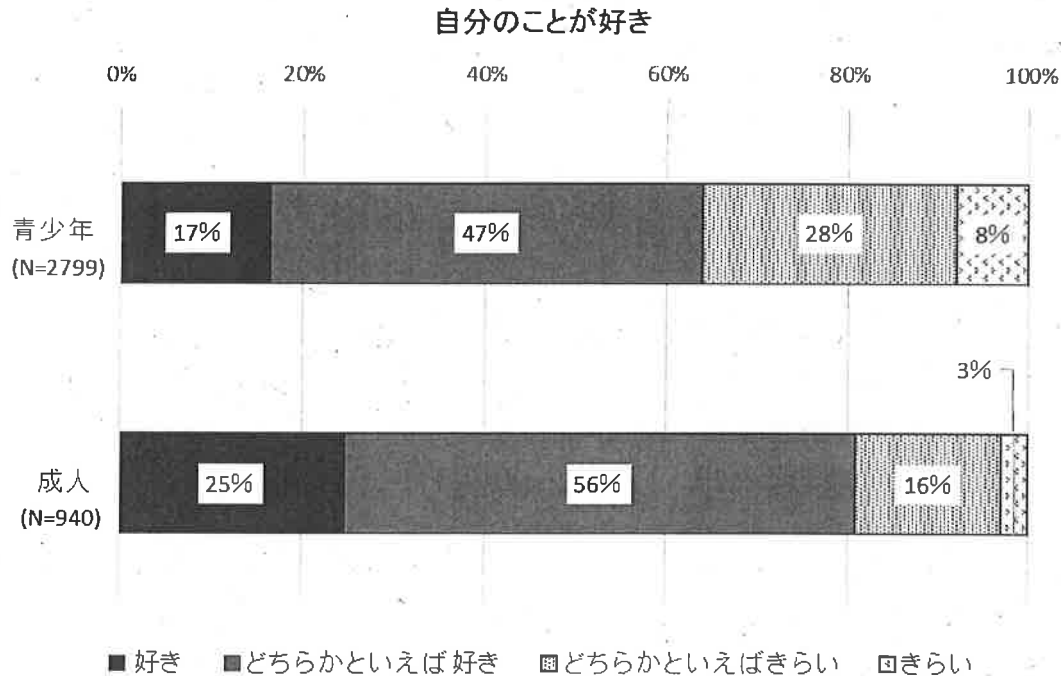
2. 悩みや心配なことについて（青少年 問2、成人 問2）

「あなたはどんな心配や悩みがありますか（あてはまるものすべてに○）」という問に対して、青少年では「勉強や進学のこと」について悩みや心配を抱えていると答えた回答者が78.1%と最も多かった。次いで、「就職のこと」について悩みや心配を抱えていると答えた回答者が28.5%と多かった。成人では、「家族のこと」、「健康のこと」、「お金のこと」について悩みや心配を抱えていると答えた回答者が、いずれも4割を超える結果となった。その他の回答として、青少年においては部活のことが最も多く、成人においては、将来や老後のことなどが挙げられていた。



3. 自分のことが好きか（青少年 問3、成人 問3）

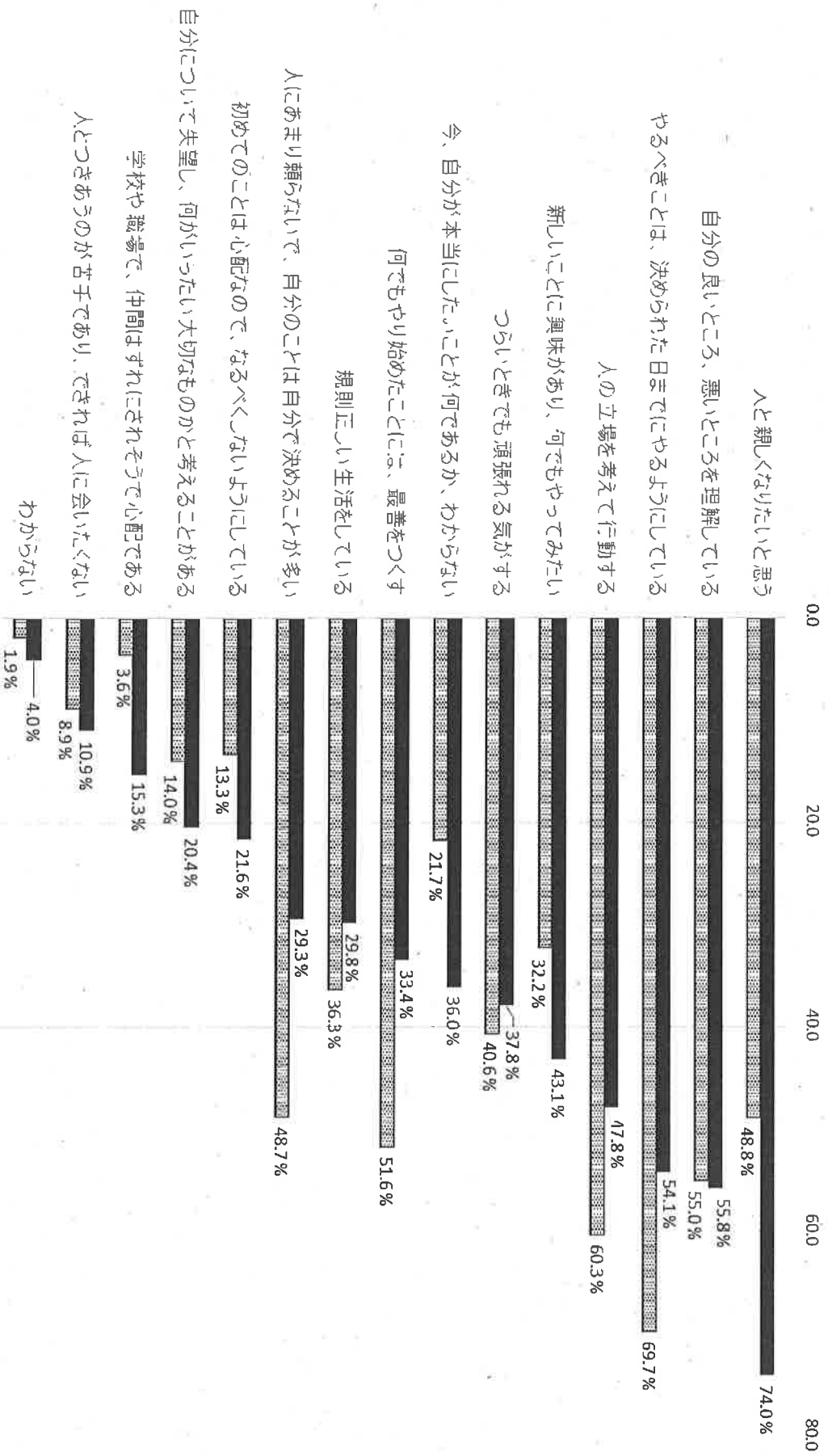
「あなたは、自分のことが好きですか」という問に対して、自分のことが「好き」、「どちらかといえば好き」と答えた回答者が、青少年は64%、成人は81%と、成人のほうが青少年よりも自分のことを「好き」と思う傾向が高い結果となった。また、青少年のほうが成人よりも自分のことを「どちらかといえばきらい」、「きらい」と思う傾向が高い結果となった。



4. 自分自身にあてはまること（青少年 問4、成人 問4）

「あなた自身にあてはまると思うものを選んでください（あてはまるものすべてに○）」という問に対して、青少年では「人と親しくなりたい」にあてはまると答えた回答者が74.0%ともっとも多い結果となった。成人では「やるべきことは、決められた日までにやるようにしている」にあてはまると答えた回答者が69.7%ともっとも多く、次いで「人の立場を考えて行動する」が60.3%と多かった。全体的に、「自分について失望し、何がいったい大切なものかと考えることがある」などのネガティブ項目よりも、「人の立場を考えて行動する」というようなポジティブ項目にあてはまると答えた回答者のほうが多い傾向にあった。

自分にあてはまること



■ 青少年 □ 成人

青少年N=2798, 成人N=945

5. 自分の考え（青少年 問5、成人 問5）

「次の意見について、あなたはどのように思いますか」という問において、「親孝行は、人としてとても大切なことである（そう思う：青少年 88.3%、成人 90.8%）」、「自分のできる範囲で社会やほかの人の役に立つことをしたい（そう思う：青少年 78.2%、成人 85.3%）」という意見に「そう思う」と答えた回答者が青少年・成人ともに8割前後と非常に多い傾向が見られた。

次いで、青少年では「経済的にめぐまれていなくても、自由に楽しく暮らしたい」「世の中は公平ではない」という意見に「そう思う」と答えた回答者がいずれも7割を超えた。成人では、青少年と同様に「世の中は公平ではない」という意見に「そう思う」と答えた回答者が7割を超える結果となった。

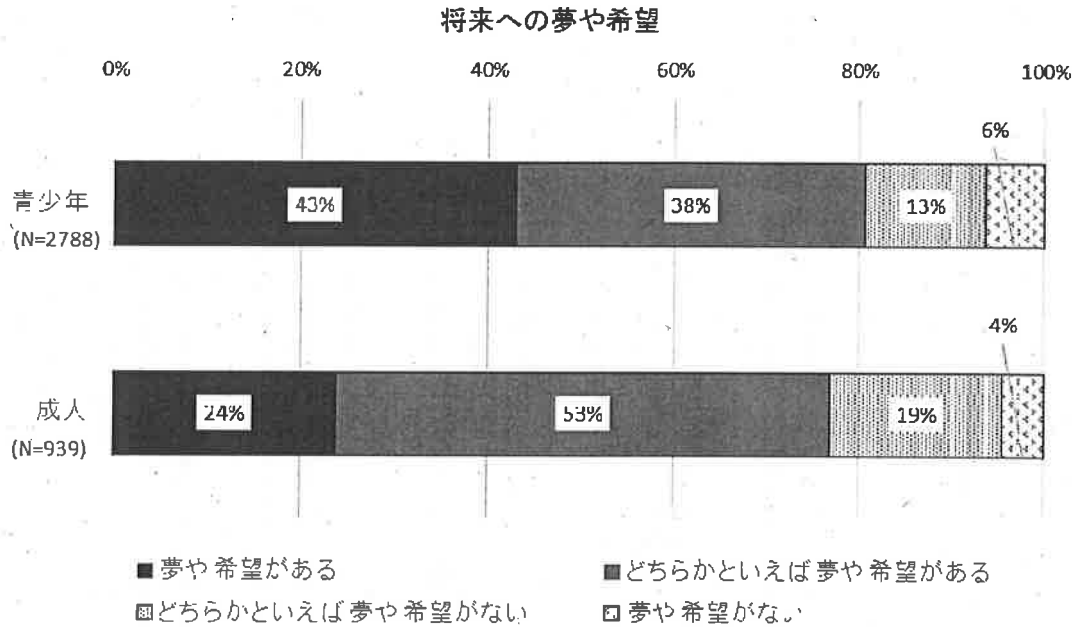
また、「世の中で一番価値のあるものはお金である」という意見に対しては、「そう思う」や「どちらでもない」と答えた回答者とよりも「そう思わない」と答えた回答者のほうが、青少年（46.0%）と成人（49.3%）ともに多い結果となった。

次の意見についての考え



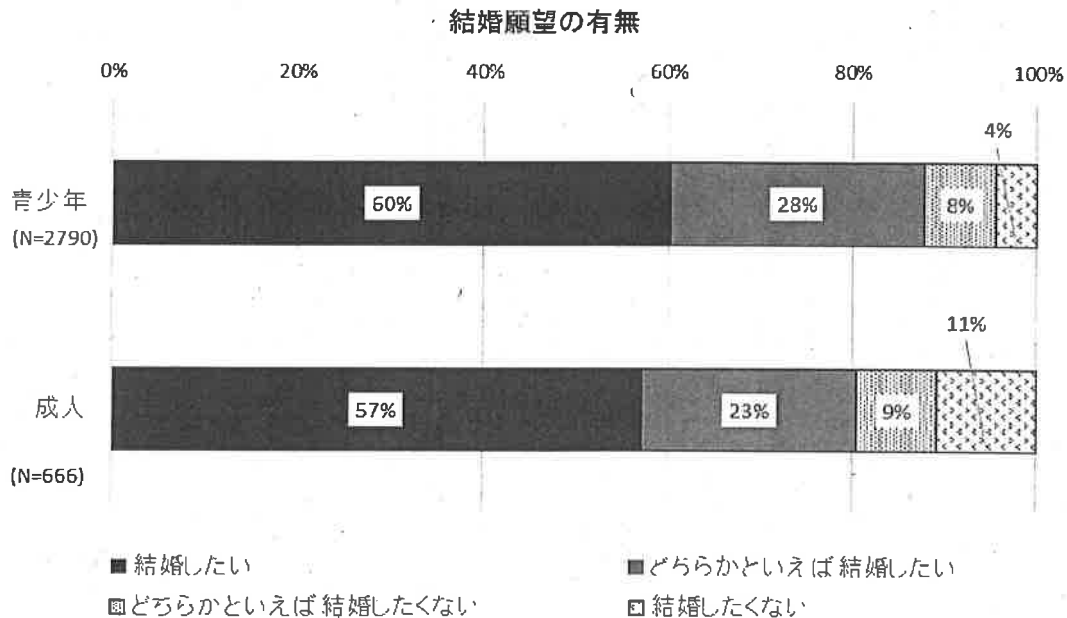
6. 将来への夢や希望（青少年 問6、成人 問6）

「あなたは、自分の将来について夢や希望を持っていますか」という問に対して、「夢や希望がある」、「どちらかといえば夢や希望がある」と答えた回答者が、青少年（81%）と成人（77%）ともに8割前後と、将来に夢や希望がある層が多い結果となった。また、「夢や希望がある」と答えた回答者は青少年のほうが成人よりも非常に多い結果となった。



7. 結婚願望の有無（青少年 問7、成人 問7）

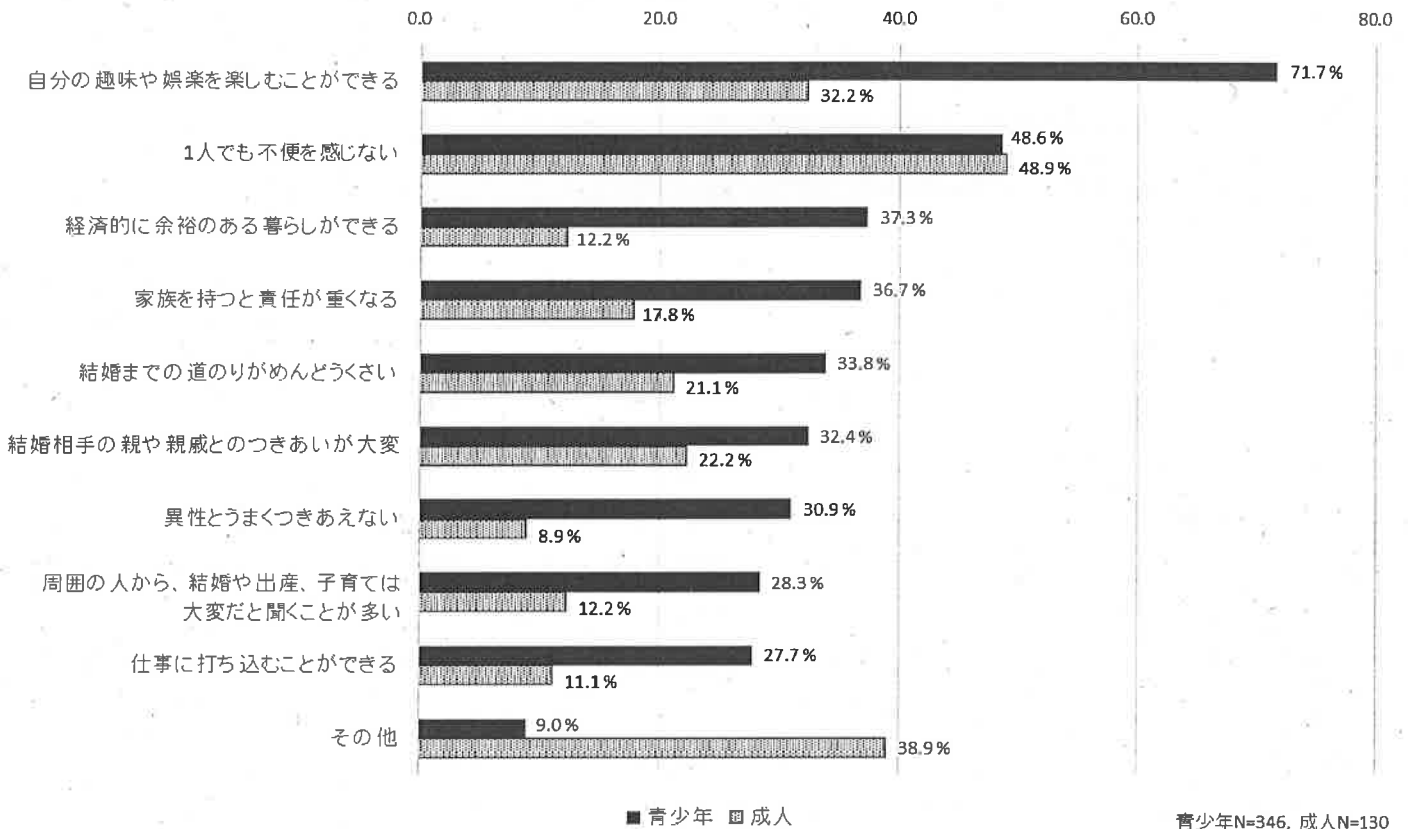
「あなたは、将来結婚したいと思いますか」という問に対して、「結婚したい」、「どちらかといえば結婚したい」と答えた回答者は、青少年（88%）と成人（80%）ともに8割以上となった。成人においては、問7の回答者が少ない結果となったが、理由としては「すでに結婚している」との自由記述が多く見られた。



8. 結婚したくない理由（青少年 問7-1、成人 問7-1）

問7で、「どちらかといえば結婚したくない」または「結婚したくない」と選んだ方を対象に、「あなたが結婚したくない、どちらかといえば結婚したくないと思う理由は何ですか（あてはまるものすべてに○）」という質問を行った。青少年で最も多かった回答は、「自分の趣味や娯楽を楽しむことができる」といった理由で71.7%となった。また、「経済的に余裕のある暮らしができる」、「異性とうまく付き合えない」、「家族を持つと責任が重くなる」、「結婚までの道のりがめんどくさい」、「結婚相手の親や親戚とのつき合いが大変」といった理由が3割を超えていた。成人では「1人でも不便を感じない」からと答えた回答者が48.9%と最も多く、青少年においても48.6%と2番目に多い理由であった。成人においては、その他の理由が多くみられ、その理由としては既婚であるというものであった。

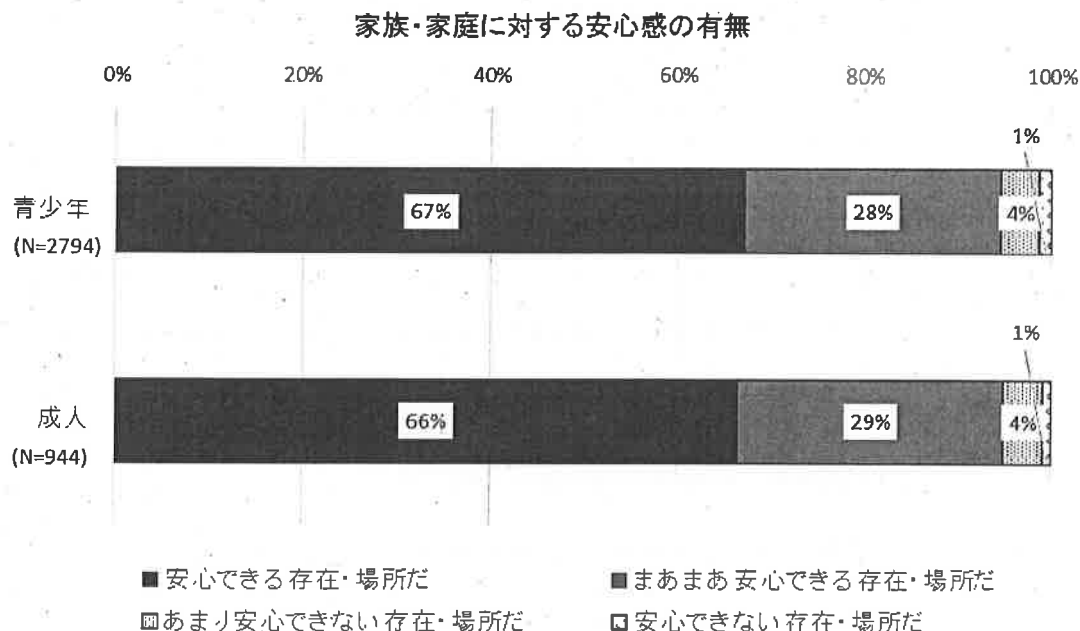
結婚したくない理由



家庭・家族について

9. 家族や家庭に対する安心感（青少年 問8、成人 問8）

「あなたにとって、家族・家庭は安心できる存在・場所ですか」という問に対して、「安心できる存在・場所だ」、「まあまあ安心できる存在・場所だ」と答えた回答者が、青少年と成人ともに95%とかなり多い傾向が見られた。

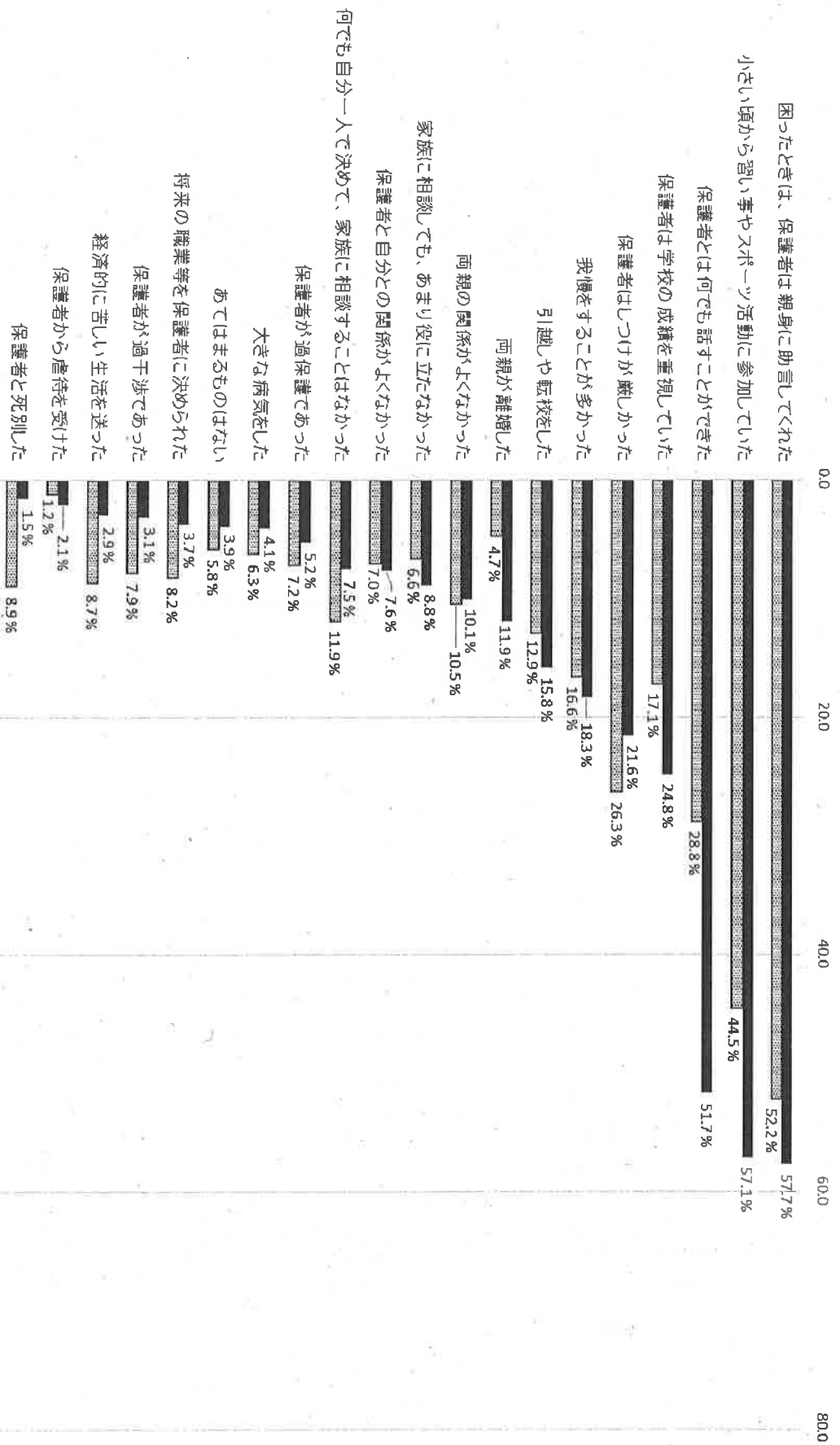


10. 家庭での経験（青少年 問9、成人 問9）

「あなたは、家庭で次（図 家庭での経験参照）のような経験をしたことがありますか（あてはまるものすべてに○）」という問に対して、青少年では「保護者とは何でも話すことができた」（51.7%）、「困ったときは、保護者は親身に助言してくれた」（57.7%）、「小さい頃から習い事やスポーツ活動に参加していた」（57.1%）という肯定的な経験をしたことがある回答者が多く、いずれも半数を超えた。成人においても、「困ったときは、保護者は親身に助言してくれた」（52.2%）、「小さい頃から習い事やスポーツ活動に参加していた」（44.5%）という肯定的な経験をしたことがある回答者が比較的多かった。

また、「両親が離婚した」経験がある青少年は11.9%、同様の経験がある成人は4.7%と、青少年のほうが多く、「保護者と死別した」経験がある青少年は1.5%、同様の経験がある成人は8.9%と成人のほうが多かった。両親/保護者と離れ離れになってしまった要因は青少年と成人で異なる様子が見られた。

家庭での経験

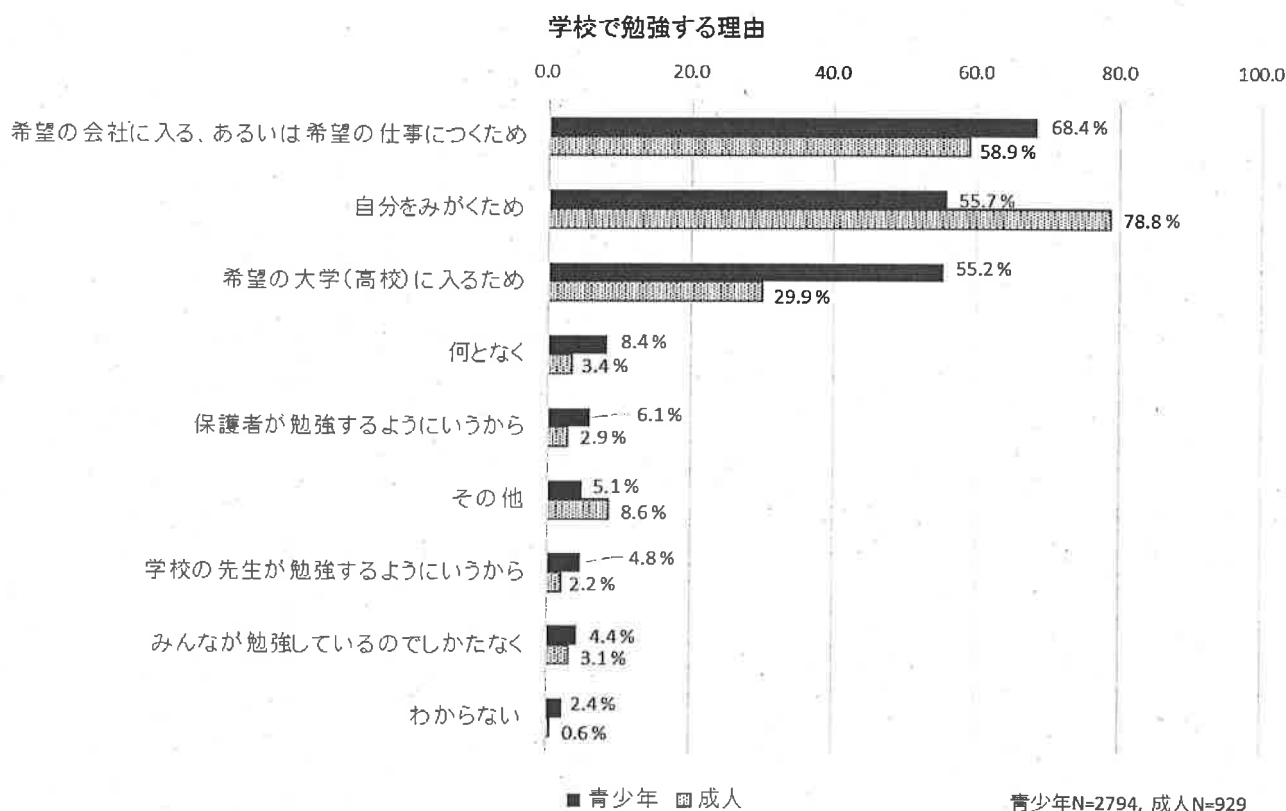


■ 青少年 N=2746 ■ 成人 N=928

青少年N=2746, 成人N=928

11. 学校で勉強する理由（青少年 問10、成人 問10）

「あなたは、こどもが学校で勉強するのは何のためだと思いますか（あてはまるものすべてに○）」という問に対して、青少年では「自分をみがくため」（55.7%）、「希望の大学（高校）に入るため」（55.2%）、「希望の会社に入る、あるいは希望の仕事につくため」（68.4%）と答えた回答者が多く、いずれも半数を超えた。成人においても「自分をみがくため」（78.8%）、「希望の会社に入る、あるいは希望の仕事につくため」（58.9%）と答えた回答者が多い結果となった。青少年と成人ともに、「保護者が勉強するようにいうから」というような受動的な理由よりも「自分をみがくため」というような主体的な理由が多く見られた。また、成人において「自分をみがくため」と捉えられており、成人してから学ぶ理由を捉えなおすようになっていいると考えられる。

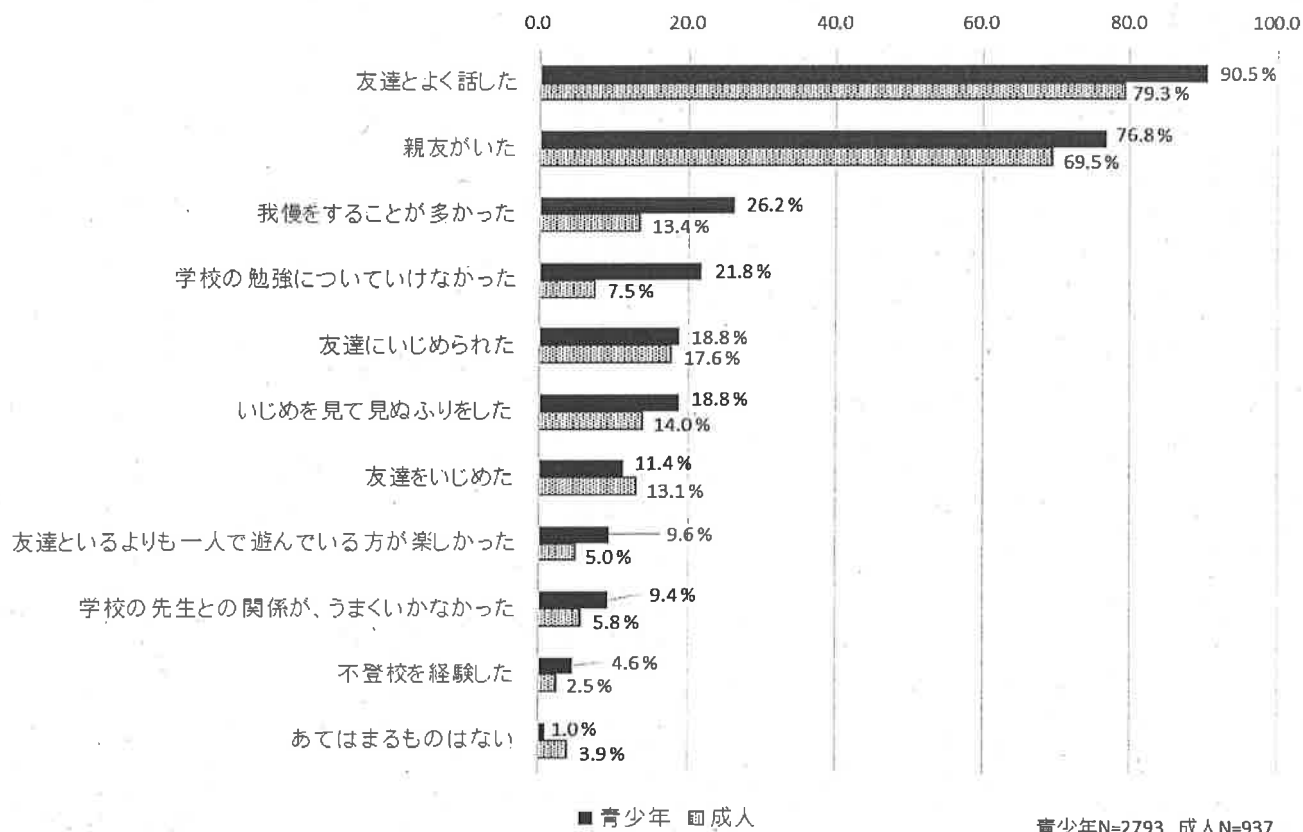


12. 小・中学校での経験（青少年 問11、成人 問11）

「あなたは、小学校や中学校の頃で次のようなことを経験したことがありますか（あてはまるものすべてに○）」という問に対して、青少年と成人ともに「友だちとよく話した」（青少年 90.5%、成人 79.3%）、「親友がいた」（青少年 76.8%、成人 69.5%）と答えた回答者が多かった。

また、「学校の勉強についていけなかった」経験がある青少年は21.8%、同様の経験がある成人は7.5%、「我慢をすることが多かった」経験がある青少年は26.2%、同様の経験がある成人は13.4%と、いずれも青少年のほうが多い傾向にあった。こうした結果は、青少年は調査時点で中学生のものが含まれているためと考えられる。

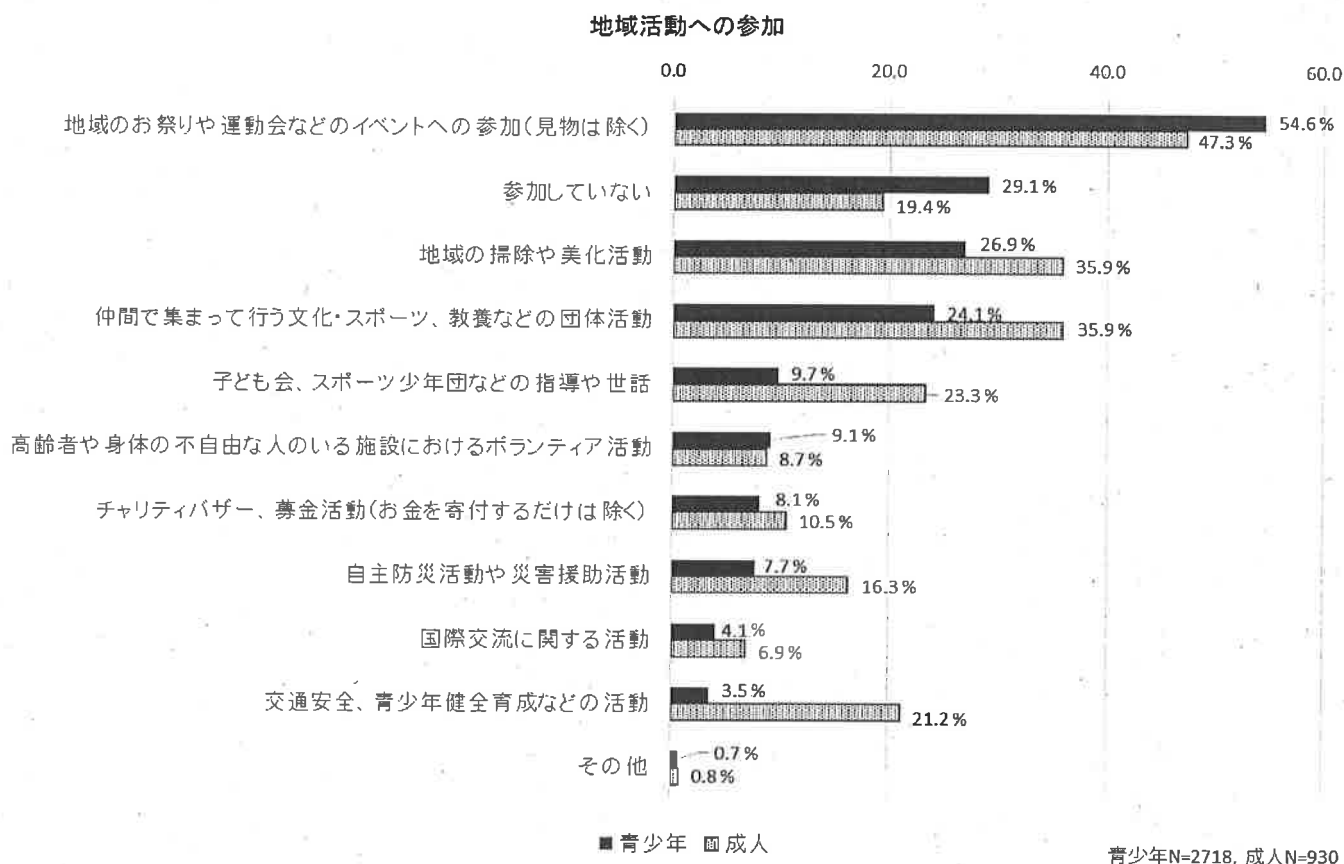
小・中学校での経験



地域づくり・地域への愛着について

13. 地域活動への参加（青少年 問 12、成人 問 12）

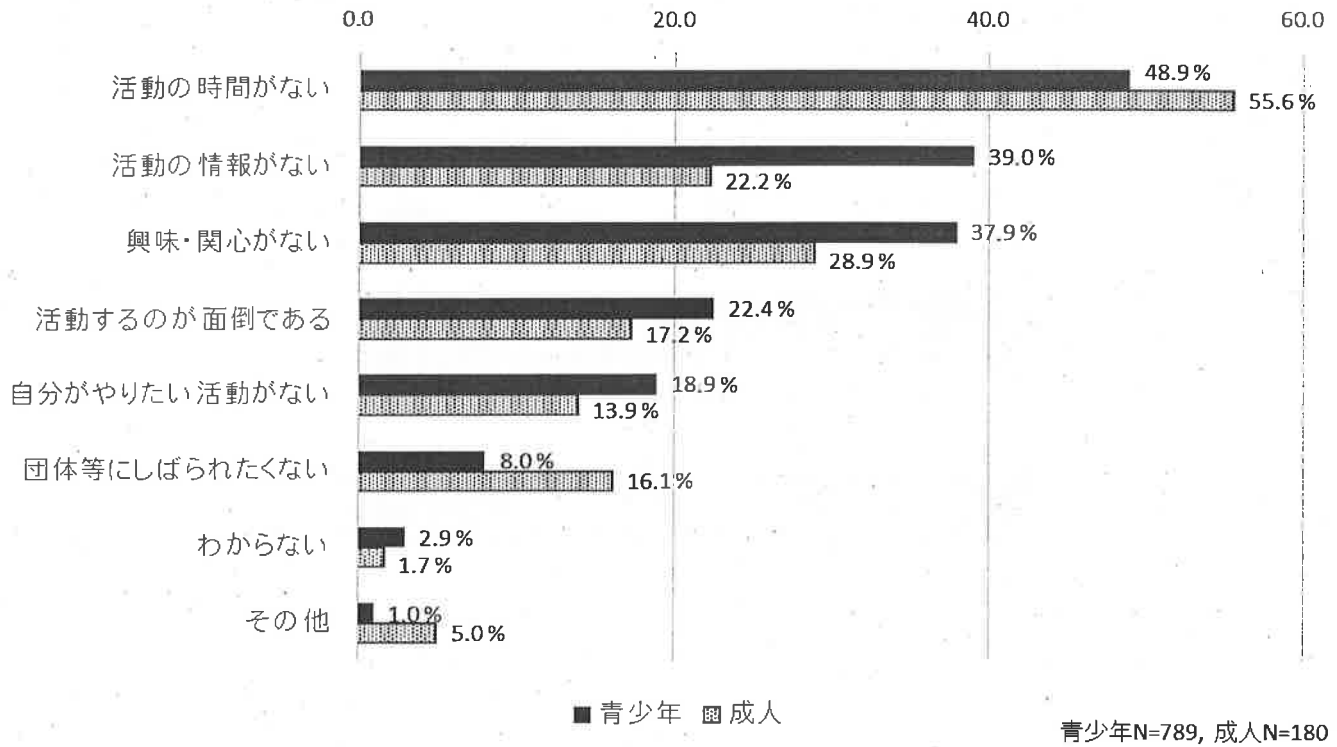
「あなたは、最近2年ぐらいの間に、次のような活動（図 地域活動への参加参照）に参加したり、行ったことがありますか（あてはまるものすべてに○）」という問いに対して、青少年と成人ともに「地域のお祭りや運動会などのイベント」に参加したことがあると答えた回答者がもっとも多かった（青少年 54.6%、成人 47.3%）。成人においては、「地域の掃除や美化活動」、「仲間で集まって行う文化・スポーツ、教養などの団体活動」に35.9%が参加していると回答した。その他の活動については、成人のほうが、青少年よりも参加した経験が多く、「参加していない」と答えた回答者は、青少年のほうが成人よりも多かった（青少年 29.1%、成人 19.4%）。



14. 地域・社会参加活動に参加しない理由（青少年 問 12-1、成人 問 12-1）

問 12 で「参加していない」と答えた回答者を対象に、「あなたが地域・社会参加活動に参加しない主な理由は何ですか（あてはまるものすべてに○）」といった質問を行った。問 12 で、「参加しない」と答えた回答者は青少年 789 名、成人 180 名であった。その結果、「活動の時間がない」（青少年 48.9%、成人 55.6%）と答えた回答者が青少年と成人ともにもっとも多かった。また、青少年においては「活動の情報がない」（39.0%）、「興味・関心がない」（37.9%）と答えた回答者も多かった。その他の理由として、青少年においては活動に参加する不安があることが挙げられた。

地域・社会参加活動に参加しない理由

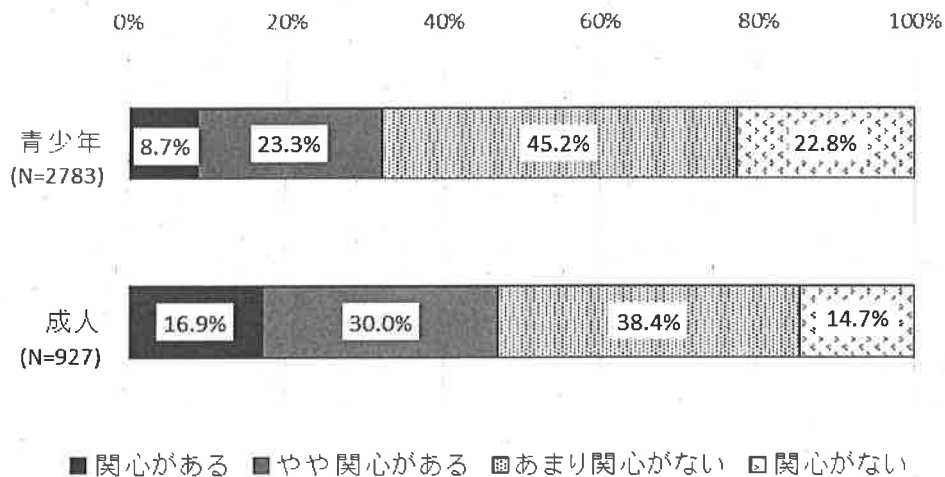


15. 青少年が企画し実施するプロジェクトに参加することへの関心の有無

(青少年 問 13、成人 問 13)

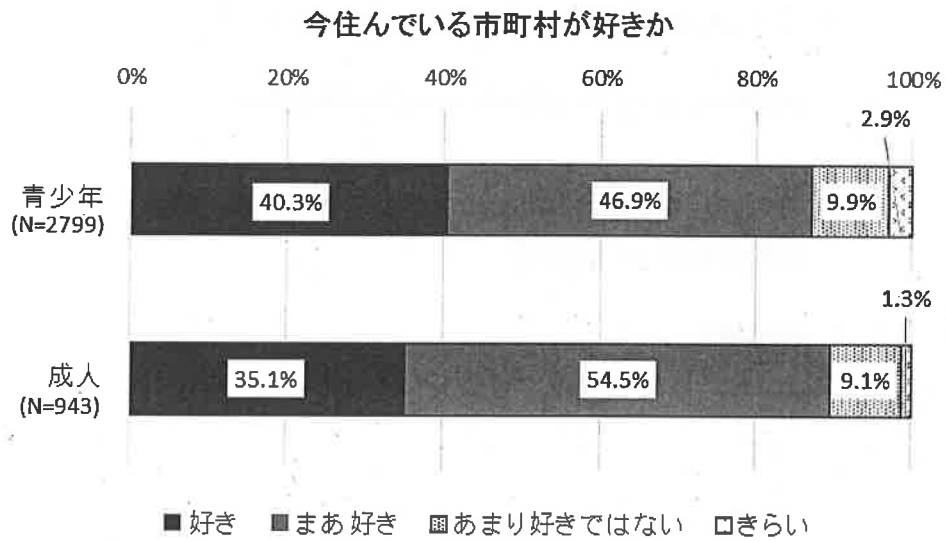
「あなたは、青少年自身が企画し実施するプロジェクトに参加することに関心がありますか」という問いに対して、青少年と成人ともに「あまり関心がない」「関心がない」と答えた回答者が半数を超えた(青少年 68.0%、成人 53.1%)。青少年のほうが成人よりも、青少年自身が企画し実施するプロジェクトに参加することへの関心が少ない結果となった。

青少年プロジェクト参加への関心



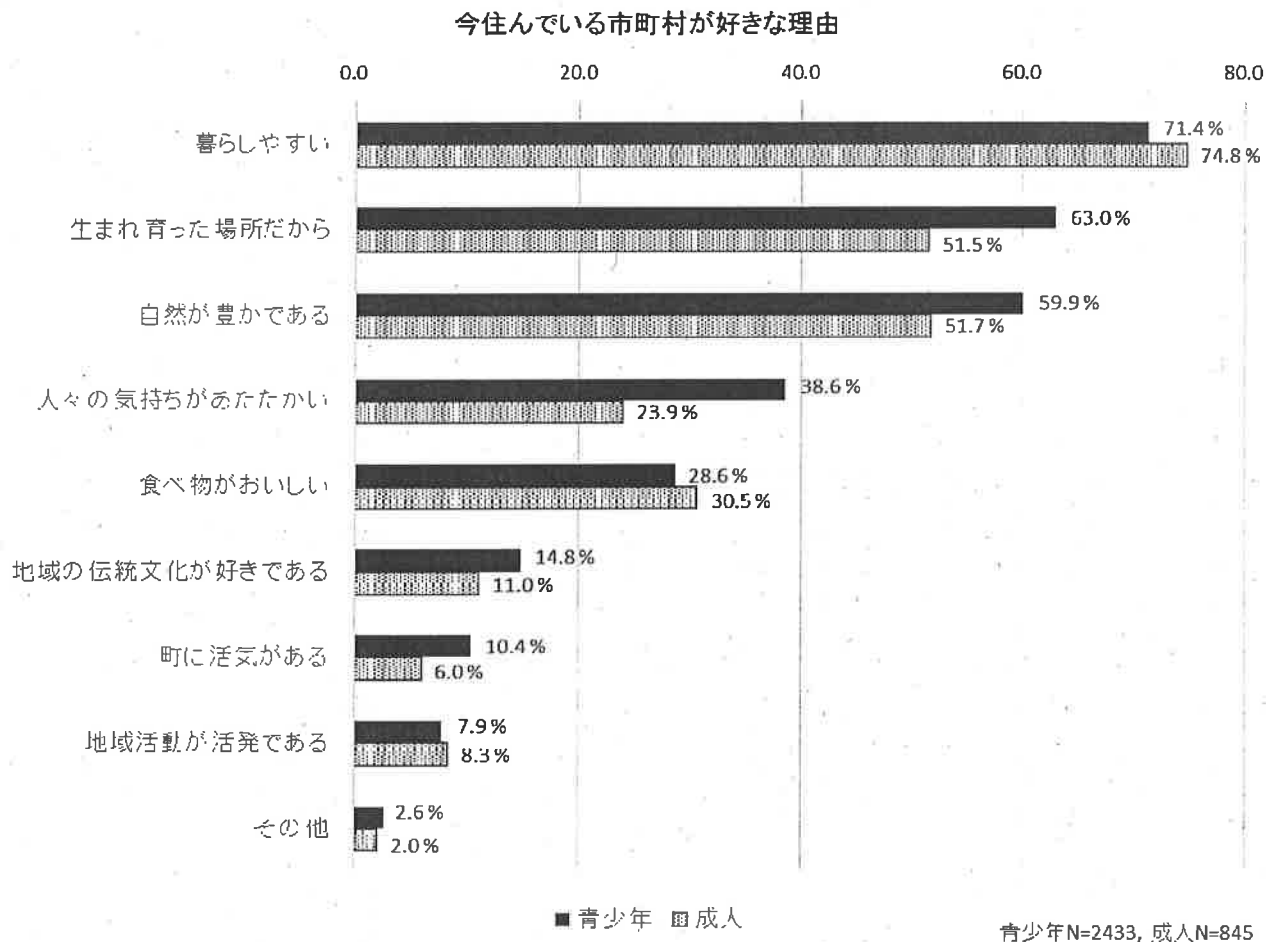
16. 今住んでいる市町村が好きか（青少年 問 14、成人 問 14）

「あなたは、今住んでいる市や町や村が好きですか」という問に対して、青少年と成人ともに「好き」「まあ好き」と答えた回答者が8割以上となった（青少年 87.2%、成人 89.6%）。



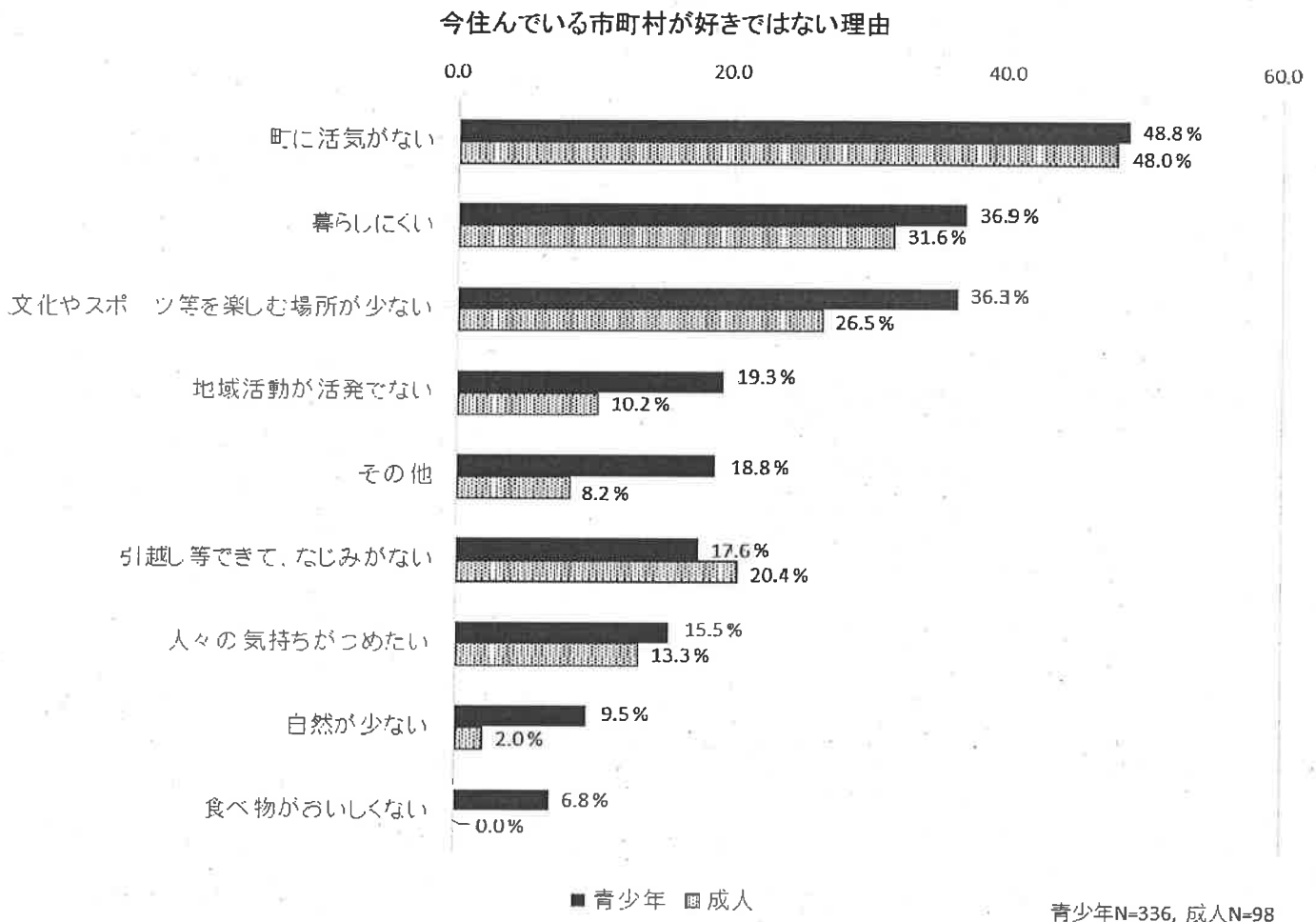
17. 今住んでいる市町村が好きな理由（青少年 問 14-1、成人 問 14-1）

問 14 で今住んでいる市町村が「好き」「まあ好き」と答えた回答者を対象に、「好きな理由はなんですか（あてはまるものすべてに○）」との質問を行った。その結果、青少年と成人ともに「暮らしやすい」と答えた回答者がもっとも多かった（青少年 71.4%、成人 74.8%）。次いで多かった理由は、青少年と成人ともに「自然が豊かである」（青少年 59.9%、成人 51.7%）や「生まれ育った場所だから」（青少年 63.0%、成人 51.5%）であった。また、青少年においては「人々の気持ちがあたたかい」が 38.6%と高い値であった。



18. 今住んでいる市町村が好きではない理由（青少年 問 14-1、成人 問 14-1）

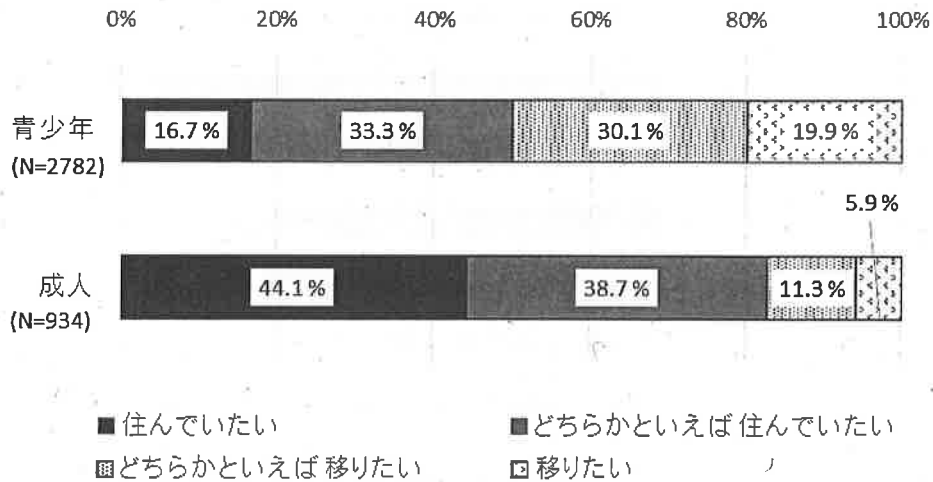
問 14 で今住んでいる市町村が「きれい」「あまり好きではない」と答えた回答者を対象に、「好きではない理由はなんですか（あてはまるものすべてに○）」との質問を行った。その結果、青少年と成人ともに「町に活気がない」と答えた回答者がもっとも多かった（青少年 48.8%、成人 48.0%）。次いで多かった理由は、青少年と成人ともに「暮らしにくい」（青少年 36.9%、成人 31.6%）や「文化やスポーツ等を楽しむ場所が少ない」（青少年 36.3%、成人 26.5%）であった。



19. 将来も今の地域に住んでいたい（青少年 問 15、成人 問 15）

「あなたは、将来もずっと今の地域に住んでいたいと思いますか」という問に対して、青少年では「住んでいたい」「どちらかといえば住んでいたい」と答えた回答者と「移りたい」「どちらかといえば移りたい」と答えた回答者が、それぞれ 50% と同比率であった。一方成人では、「住んでいたい」「どちらかといえば住んでいたい」と答えた回答者（82.8%）が、「移りたい」「どちらかといえば移りたい」と答えた回答者（17.2%）よりも上回った。

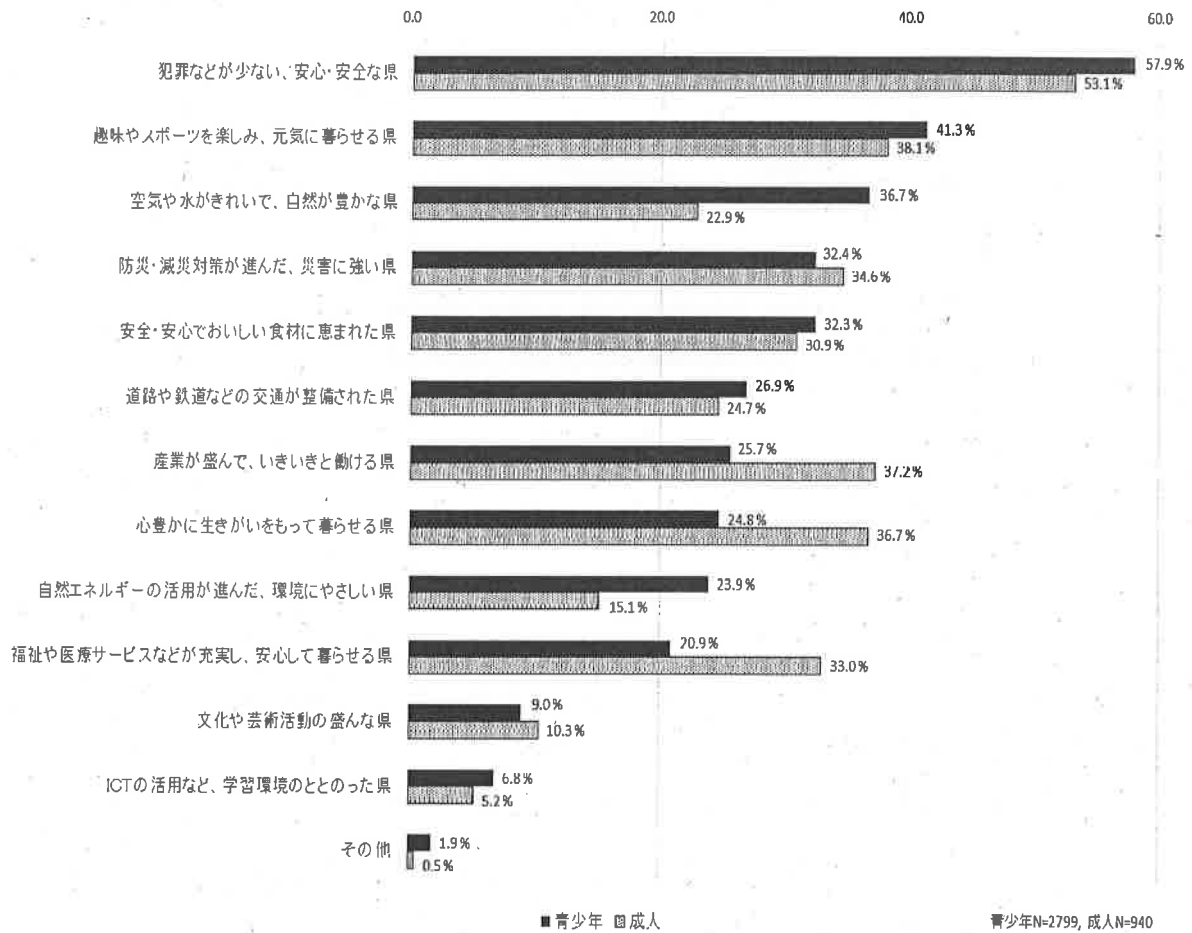
将来も今の地域に住んでいたい



20. 徳島県がどのような県になってほしいか (青少年 問 16、成人 問 16)

「あなたは、徳島県が将来どのような県になってほしいと思いますか (あてはまるもの3つに○)」という問に対して、青少年と成人ともに「犯罪などが少ない、安心・安全な県」と答えた回答者がもっとも多かった (青少年 57.9、成人 53.1%)。次いで、青少年と成人ともに「趣味やスポーツを楽しみ、元気に暮らせる県」と答えた回答者が多かった (青少年 41.3、成人 38.1%)。青少年に特徴的に多い項目として、「空気や水がきれいで、自然が豊かな県」が 36.7%であった。また、成人に特徴的に多い項目として、「産業が盛んで、いきいきと働ける県」が 37.2%、「心豊かに生きがいを持って暮らせる県」が 36.7%、「福祉や医療サービスなどが充実し、安心して暮らせる県」が 33.0%であった。

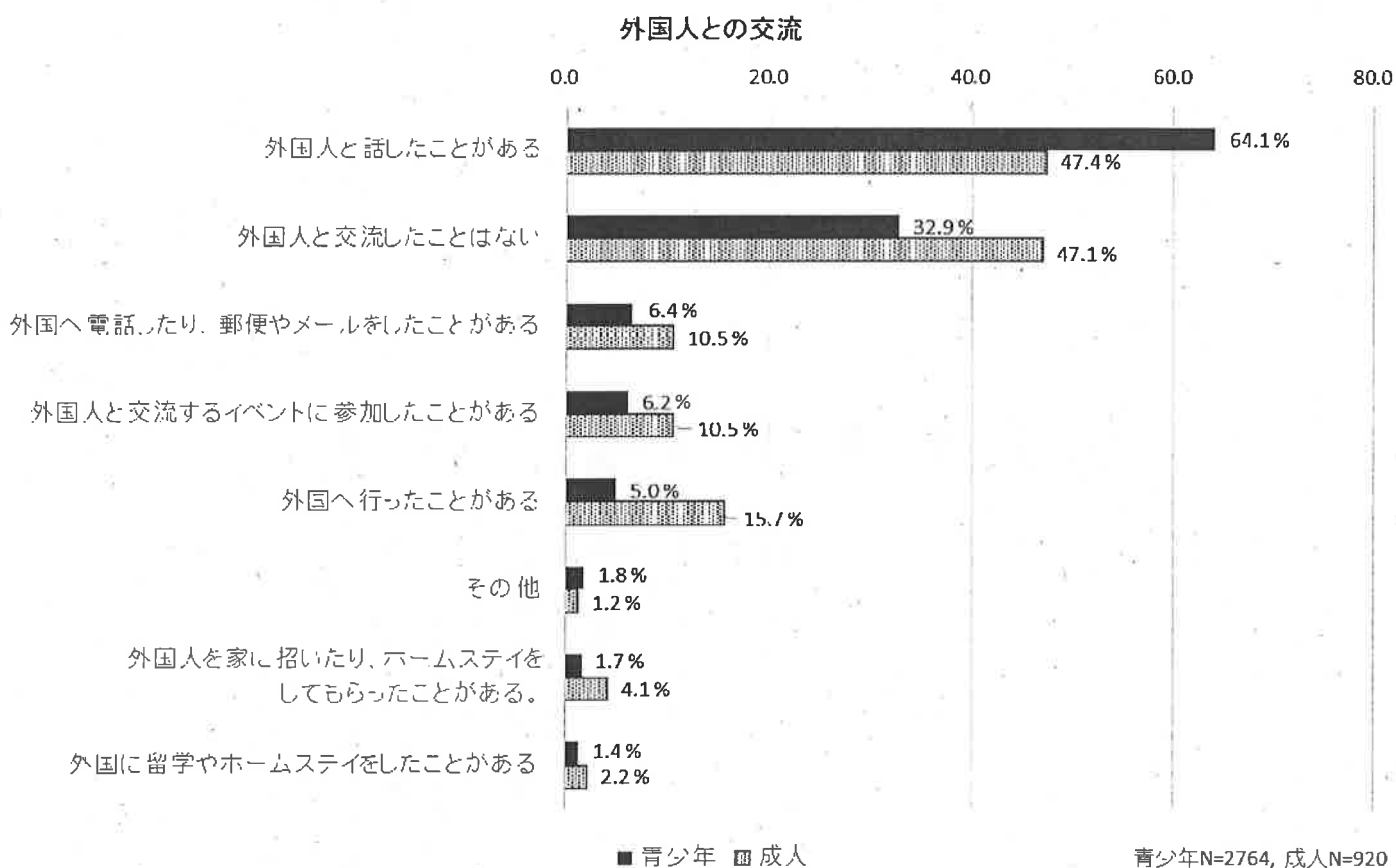
徳島県がどのような県になってほしいか



国際交流について

21. 外国人との交流（青少年 問17、成人 問17）

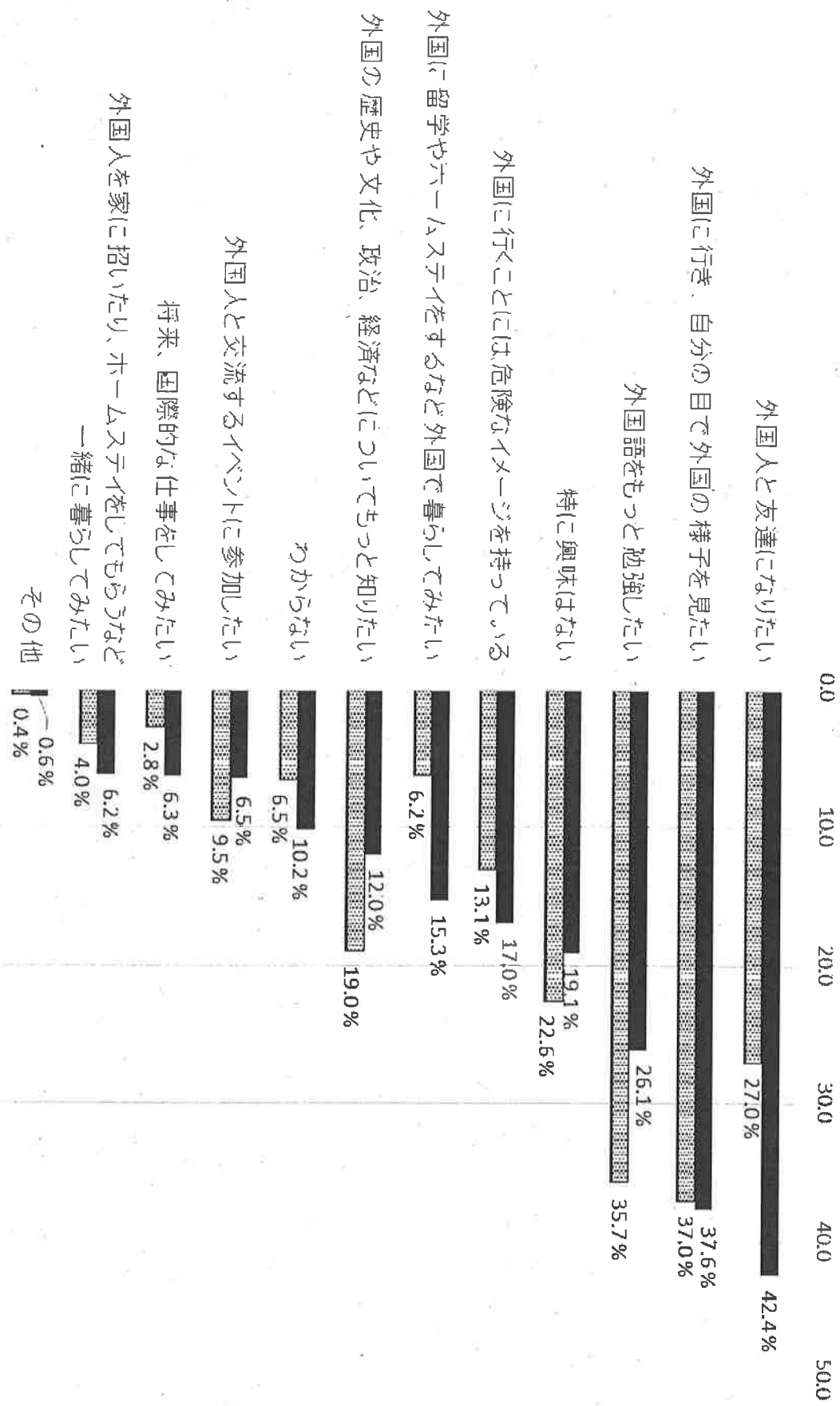
「あなたは、この1年間に外国人と交流したことはありますか（あてはまるものすべてに○）」という問に対して、青少年と成人ともに「外国人と話したことがある」と答えた回答者が多かったが、青少年のほうが「外国人と話した」経験が多い傾向にあった（青少年64.1%、成人47.4%）。次いで、青少年と成人ともに「外国人と交流したことはない」と答えた回答者が多かったが、成人のほうが「外国人と交流した」経験が少ない傾向にあった（青少年32.9%、成人47.1%）。また、青少年の自由記述において英語の授業で外国の先生と交流したという回答が多くみられた。



22. 国際交流について（青少年 問18、成人 問18）

「あなたは、国際交流についてどう思いますか（あてはまるもの2つに○）」という問に対して、青少年では「外国人と友だちになりたい」と答えた回答者がもっとも多く、次いで「外国に行き、自分の目で外国の様子を見たい」と答えた回答者が多かった。成人では「外国に行き、自分の目で外国の様子を見たい」と答えた回答者がもっとも多く、次いで「外国語をもっと勉強したい」と答えた回答者が多かった。また、「特に興味はない」と答えた回答者は、青少年と成人ともに2割前後であった（青少年19.1%、成人22.6%）。

国際交流について



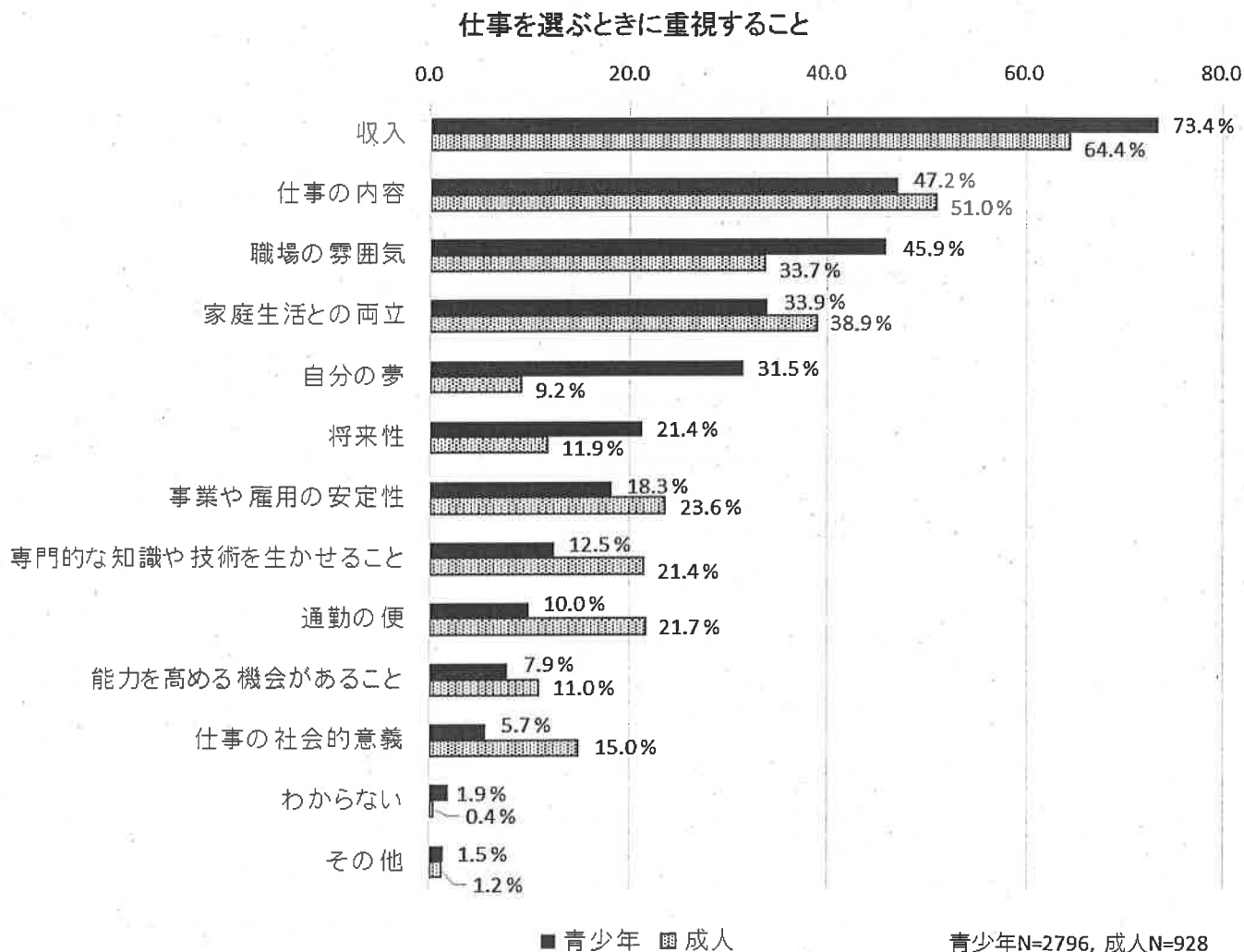
■ 青少年 □ 成人

青少年N=2790, 成人N=934

就労への意識について

23. 仕事を選ぶときに重視すること（青少年 問19、成人 問19）

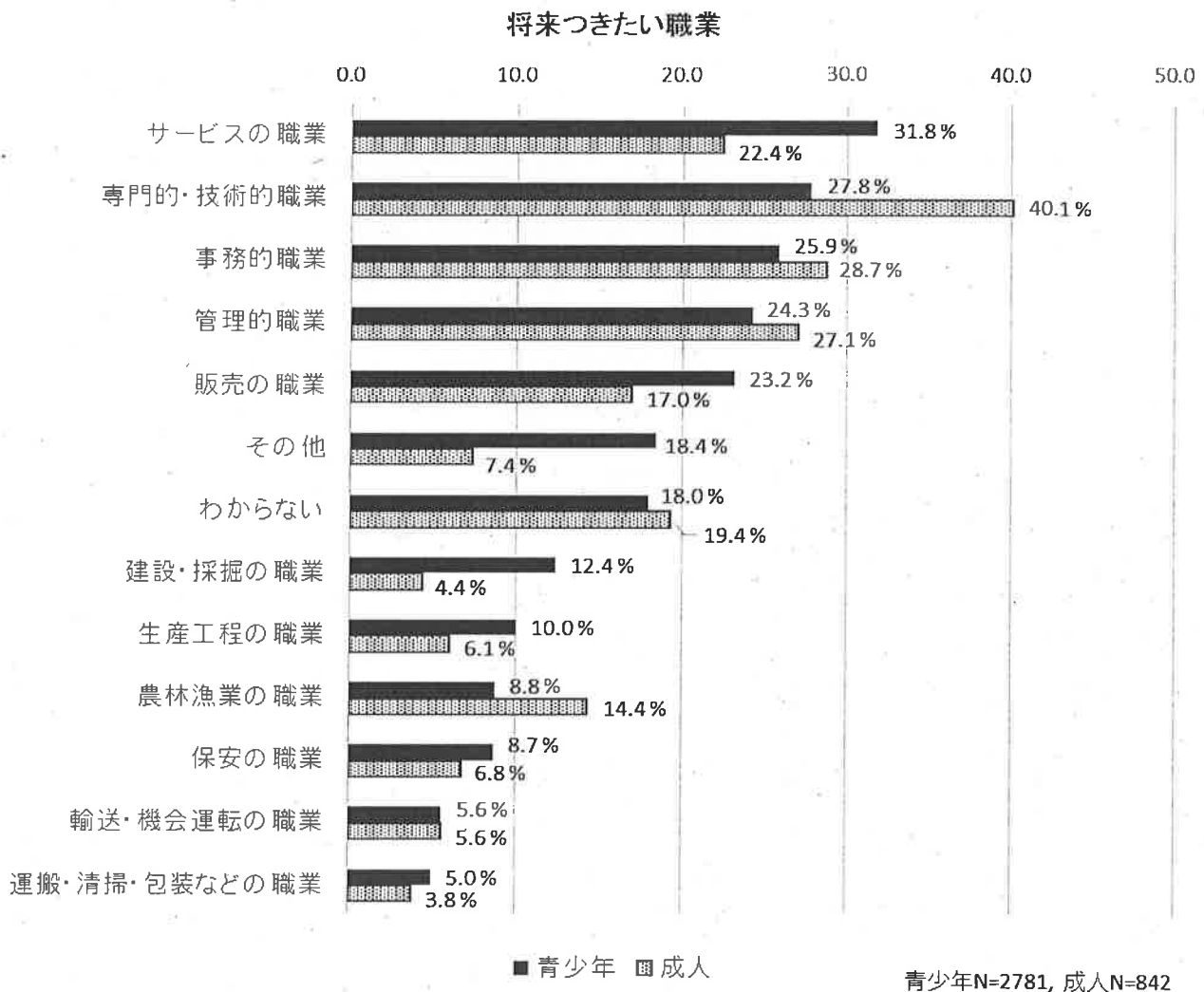
「あなたは、仕事を選ぶ際にどのようなことを重視しますか（あてはまるもの3つに○）」という問いに対して、「収入」を重視すると答えた回答者が、青少年と成人ともにもっとも多かった（青少年73.4%、成人64.4%）。次いで、青少年では「仕事の内容」（47.2%）と「職場の雰囲気」（45.9%）を重視する傾向が見られた。成人では「収入」の次に「仕事の内容」（51.0%）、「家庭生活との両立」（38.9%）を重視する傾向がみられた。また、青少年に特徴的に多い回答として「自分の夢」（31.5%）が見られた。



24. 将来つきたい職業（青少年 問 20、成人 問 20）

「あなたは、将来したい仕事やつきたい職業がありますか（あてはまるもの3つに○）」という問に対して、青少年では「サービスの職業」（31.8%）、「専門的・技術的職業」（27.8%）、「事務的職業」（25.9%）の順で多かった。一方成人では、「専門的・技術的職業」につきたいと答えた回答者が40.1%と非常に多い傾向があり、次いで「事務的職業」（28.7%）、「管理的職業」（27.1%）の順で多かった。

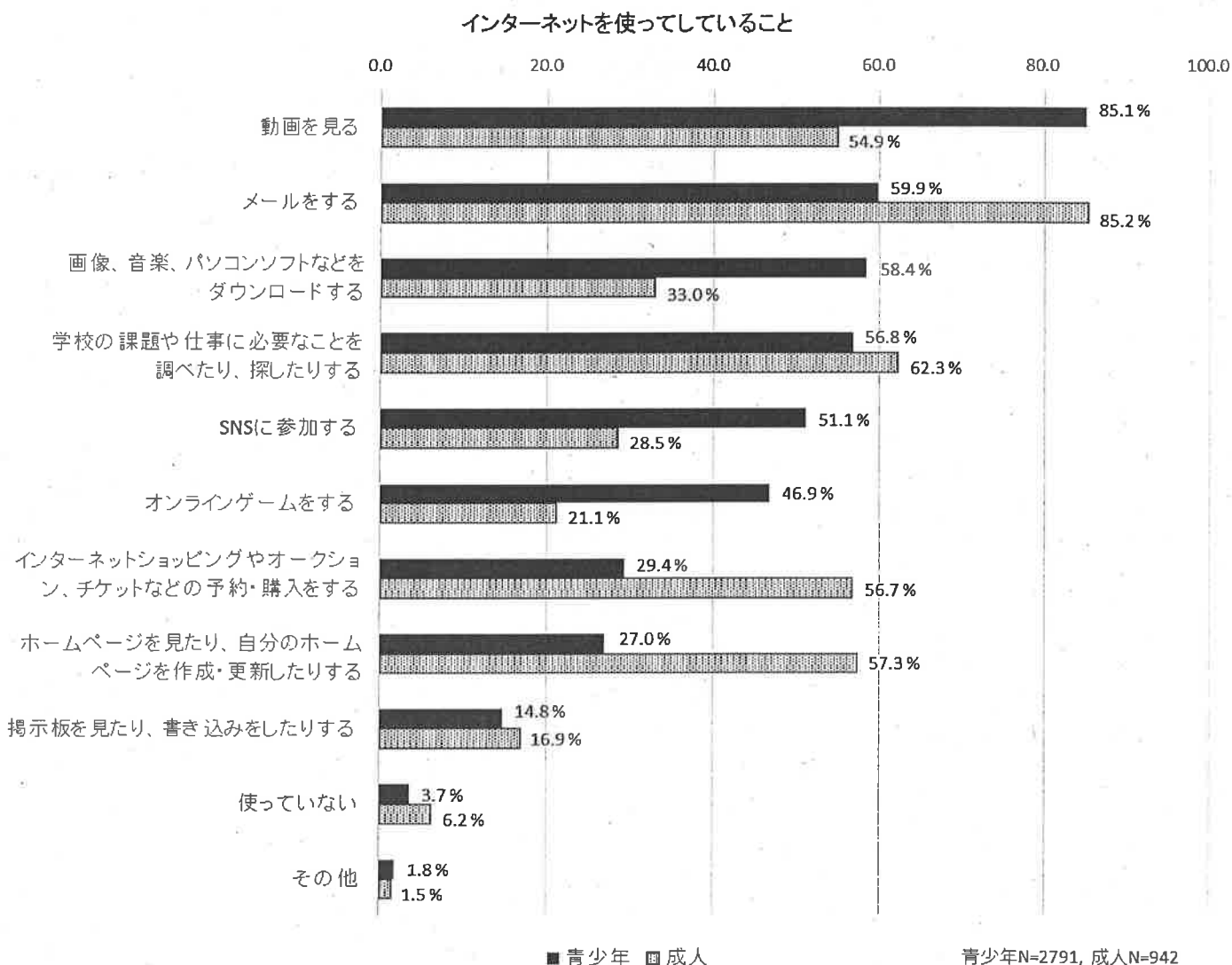
また、「わからない」と答えた回答者が、青少年と成人ともに2割弱いることがわかった（青少年18.0%、成人19.4%）。その他として、青少年においてはスポーツ選手、教師、看護師、保育士が多くみられた。



SNS・スマートフォンについて

25. インターネットを使ってしていること（青少年 問21、成人 問21）

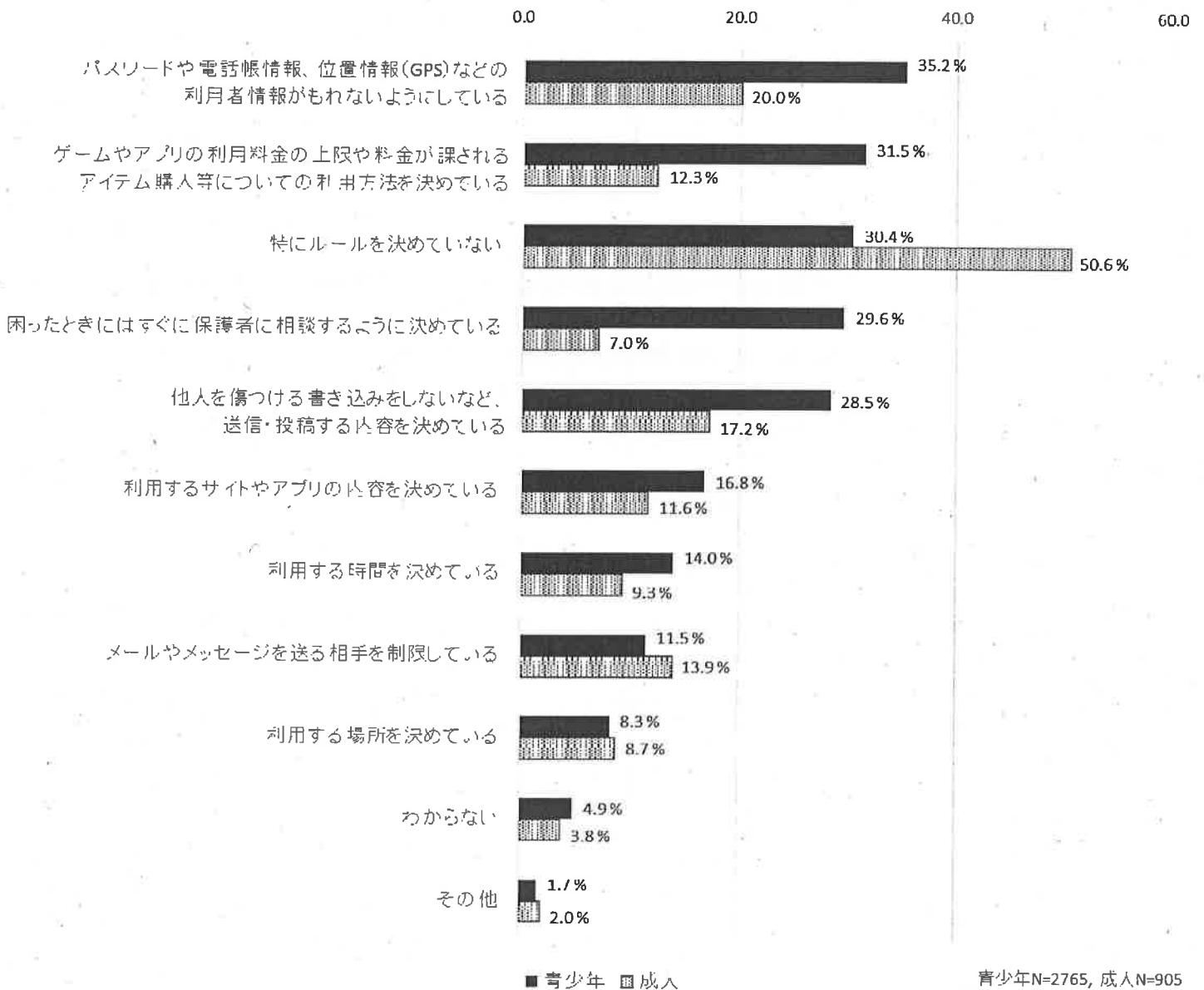
「あなたは、携帯電話やパソコンなどでインターネットを使って何をしていますか（あてはまるものすべてに○）」という問いに対して、青少年では「動画を見る」と答えた回答者がもっとも多く（85.1%）、成人では「メールをする」と答えた回答者がもっとも多かった（85.2%）。また、青少年のほうが成人よりも「SNSに参加する」（青少年51.1%、成人28.5%）や「画像、音楽、パソコンソフトなどをダウンロードする」（青少年58.4%、成人33.0%）、「オンラインゲームをする」（青少年46.9%、成人21.1%）と答えた回答者が多く、成人のほうが青少年よりも「ホームページを見たり、自分のホームページを作成・更新したりする」（青少年27.0%、成人57.3%）や「インターネットショッピングやオークション、チケットなどの予約・購入をする」（青少年29.4%、成人56.7%）と答えた回答者が多い傾向が見られた。その他として、青少年、成人ともLINEでのやり取りという記述がみられた。



26. インターネットの使い方についてのルール（青少年 問 22、成人 問 22）

「あなたの家では、インターネットの使い方（スマホ等を含む）について何かルールはありますか（あてはまるものすべてに○）」という問に対して、成人では「特にルールを決めていない」と答えた回答者が50.6%ともっとも多かったが、青少年においては、「パスワードや電話帳情報、位置情報（GPS）などの利用者情報がもれないようにしている」（35.2%）や「ゲームやアプリの利用料金の上限や料金が課されるアイテム購入等についての利用方法を決めている」（29.6%）など具体的なルールを決めて使用している傾向が多かった。青少年の自由記述には、持っていないという回答も見られた。

インターネットの使い方についてのルール

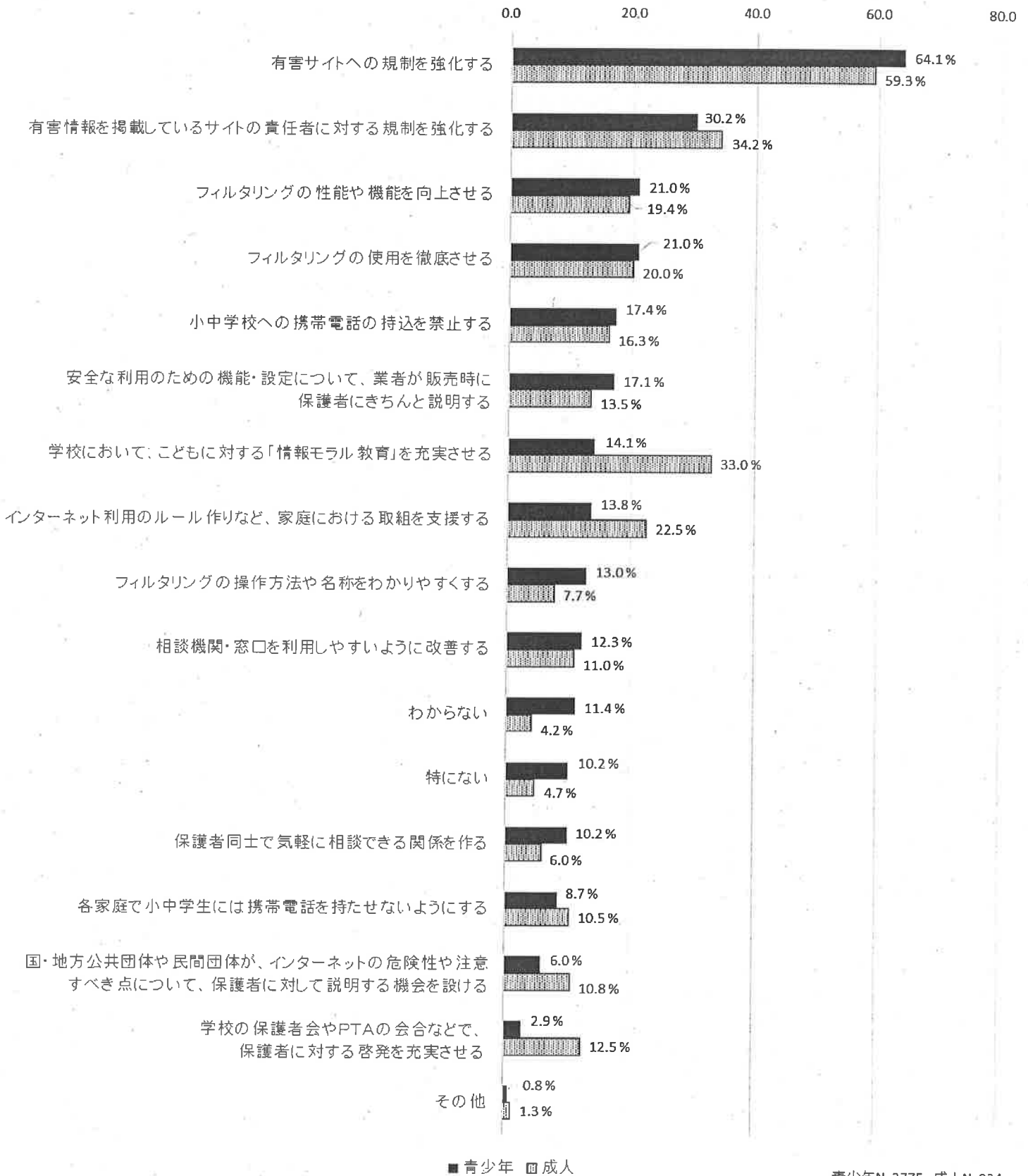


27. インターネット利用において必要と思う取組み（青少年 問23、成人 問23）

「あなたは、インターネット利用について、どのような取組みが必要だと思いますか（あてはまるもの3つに○）」という問に対して、「有害サイトへの規制を強化する」ことが必要と答えた回答者が青少年と成人ともにもっとも多かった（青少年64.1%、成人59.3%）。次いで、「有害情報を掲載しているサイトの責任者に対する規制を強化する」ことが必要と答えた回答者が多かった（青少年30.2%、成人34.2%）。

また、成人のほうが青少年よりも、「インターネット利用のルール作りなど、家庭における取組を支援する」（青少年13.8、成人22.5%）や「学校において、子どもに対する『情報モラル教育』を充実させる」（青少年14.1%、成人33.0%）というような、家庭や学校での取組が必要と考える傾向が多く見られた。さらに「小中学校への携帯電話の持込を禁止する」ことが必要と答えた回答者が、青少年と成人ともに2割弱いることがわかった（青少年17.4%、成人16.3%）。

インターネット利用において必要と思う取組み

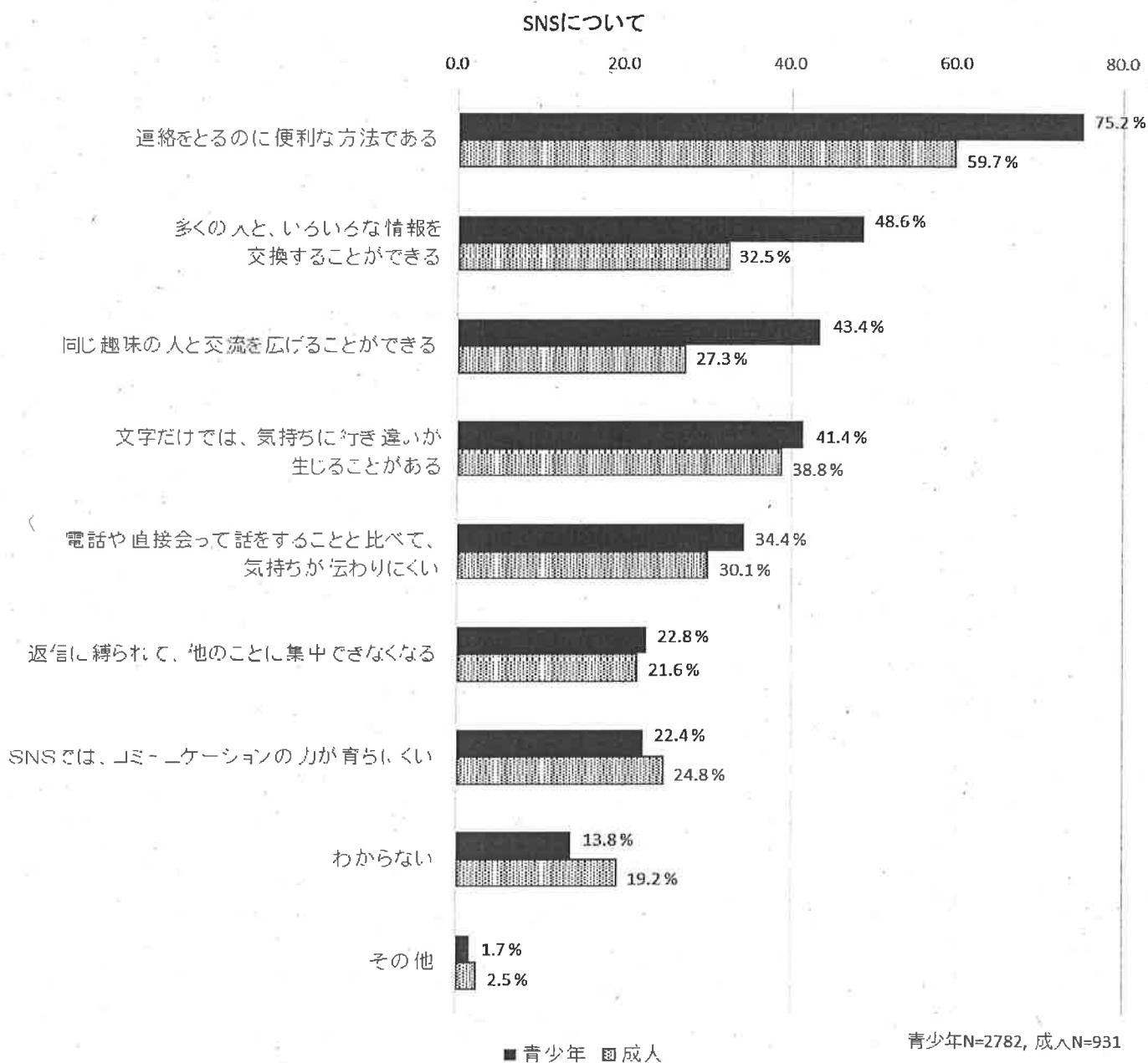


青少年N=2775, 成人N=934

28. SNSについて（青少年 問24、成人 問24）

「あなたは、SNSについてどう思いますか（あてはまるものすべてに○）」という問に対して、「連絡をとるのに便利な方法である」と答えた回答者が青少年と成人ともにもっとも多い結果となり、青少年のほうが成人よりもそう思っている傾向が高かった（青少年75.2%、成人59.7%）。

また、青少年のほうが成人よりも「同じ趣味の人と交流を広げることができる」（青少年43.4%、成人27.3%）や「多くの人と、いろいろな情報を交換することができる」（青少年48.6%、成人32.5%）など、対人交流を広げるために使用している傾向が高く見られたが、一方で「文字だけでは、気持ちに行き違いが生じることがある」などのネガティブな面を感じている傾向も成人と同程度見られた（青少年41.4%、成人38.8%）。

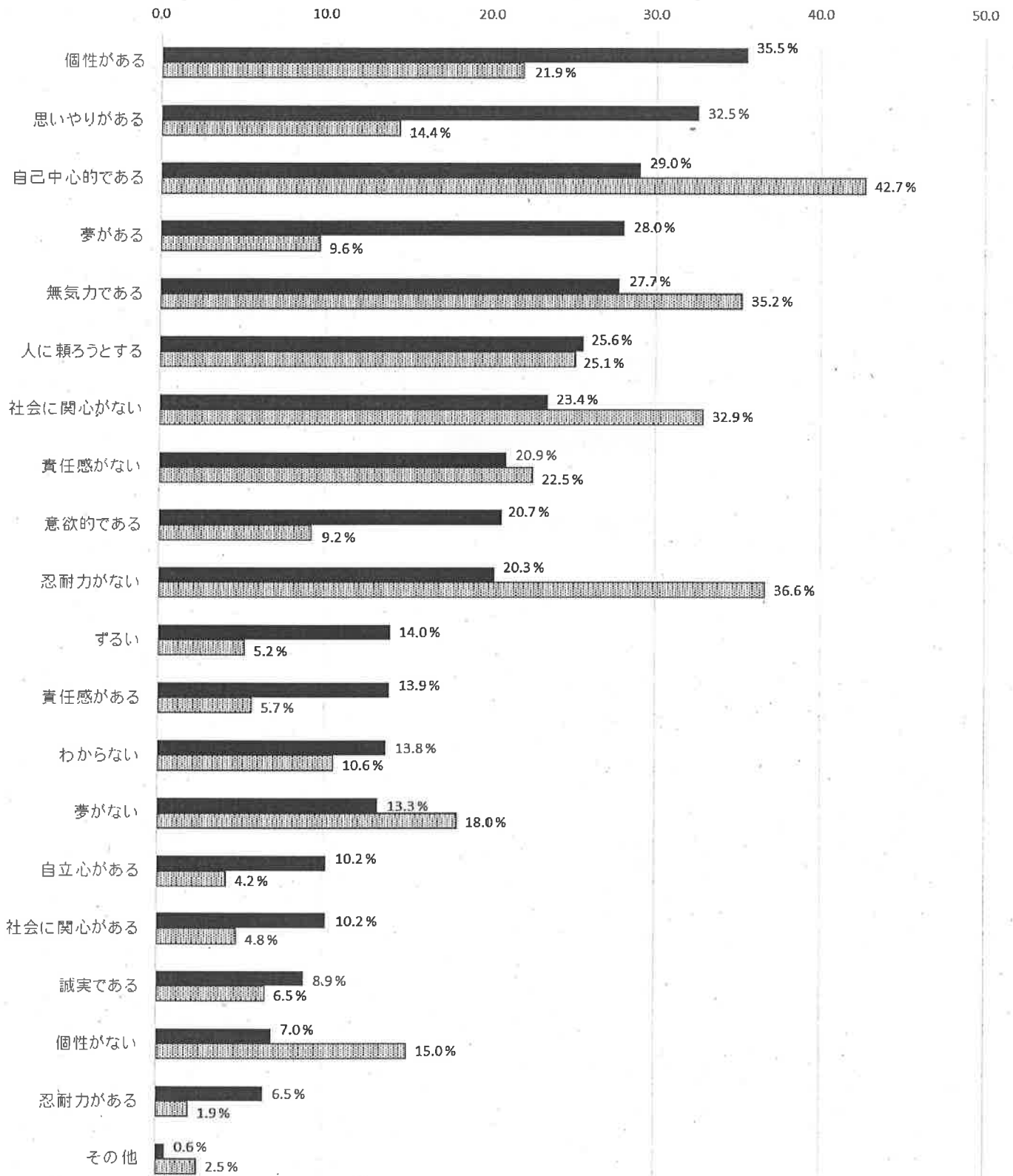


青少年の健全育成について

29. 今の青少年の特徴を表現する言葉（青少年 問 25、成人 問 25）

「今の青少年の特徴を言い表すのに、ふさわしい言葉は何だと思えますか（あてはまるものすべてに○）」という問に対して、青少年では「個性がある」（青少年 35.5%、成人 21.9%）、「思いやりがある」（青少年 32.5%、成人 14.4%）、「自己中心的である」（青少年 29.0%、成人 42.7%）といった順で多い傾向があった。一方成人では「自己中心的である」（青少年 29.0%、成人 42.7%）、「忍耐力がない」（青少年 20.3%、成人 36.6%）、「無気力である」（青少年 27.7%、成人 35.2%）といった順で多い傾向があった。全体的に、青少年は肯定的な言葉を選ぶ傾向があり、成人は否定的な言葉を選ぶ傾向が見られた。

今の青少年の特徴を表現する言葉

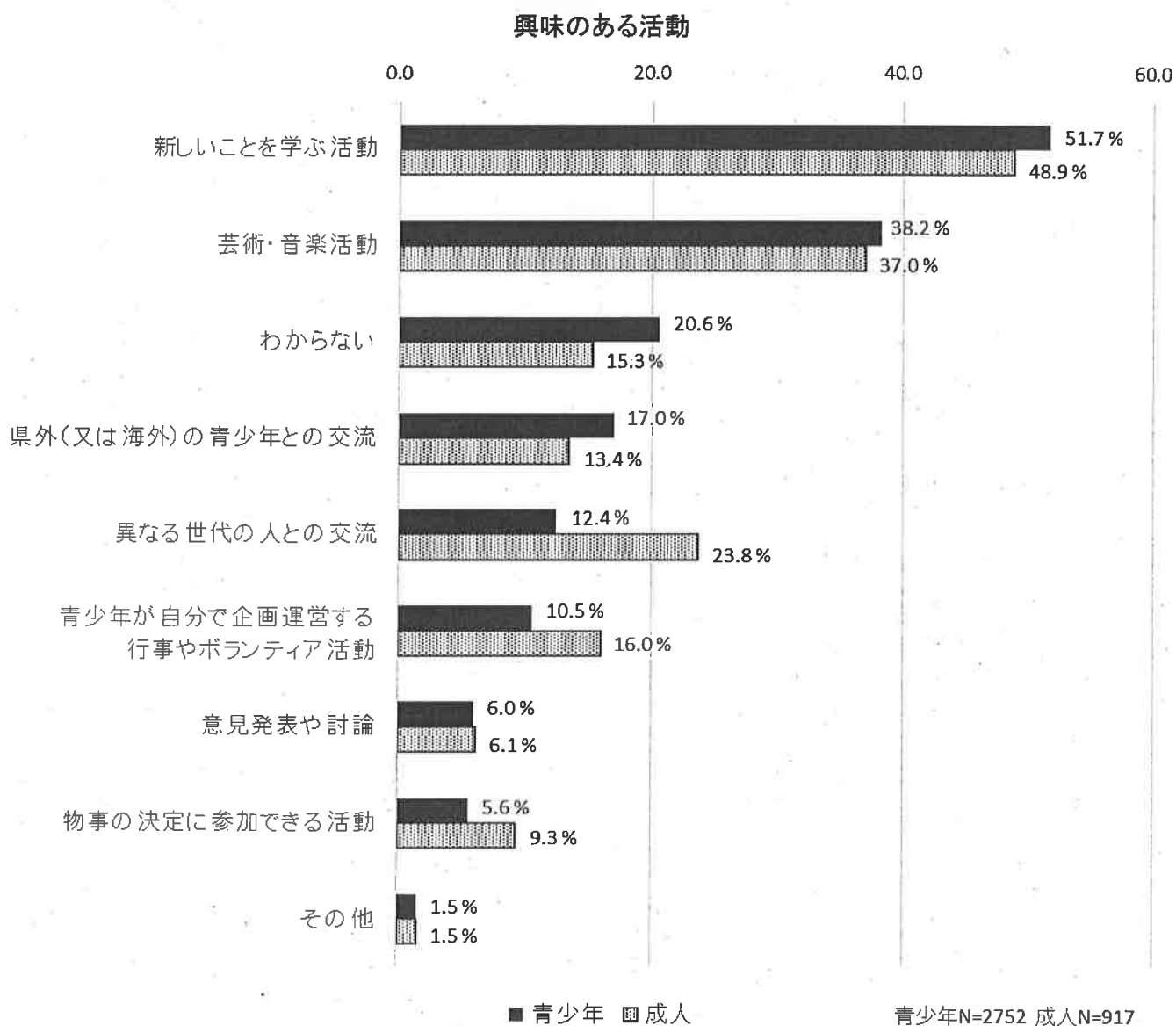


■ 青少年 □ 成人

青少年N=2790, 成人N=937

30. 興味のある活動（青少年 問 26、成人 問 26）

「あなたは、どのような活動に興味がありますか（あてはまるものすべてに○）」という問に対して、青少年と成人ともに「新しいことを学ぶ活動」に興味がある傾向がもっとも高く（青少年 51.7%、成人 48.9%）、次いで「芸術・音楽活動」に興味がある傾向が高かった（青少年 38.2%、成人 37.0%）。成人において特徴的に多い回答として、「異なる世代の人との交流」（23.8%）が見られた。また、自由記述としてスポーツに関連する活動という回答が見られた。

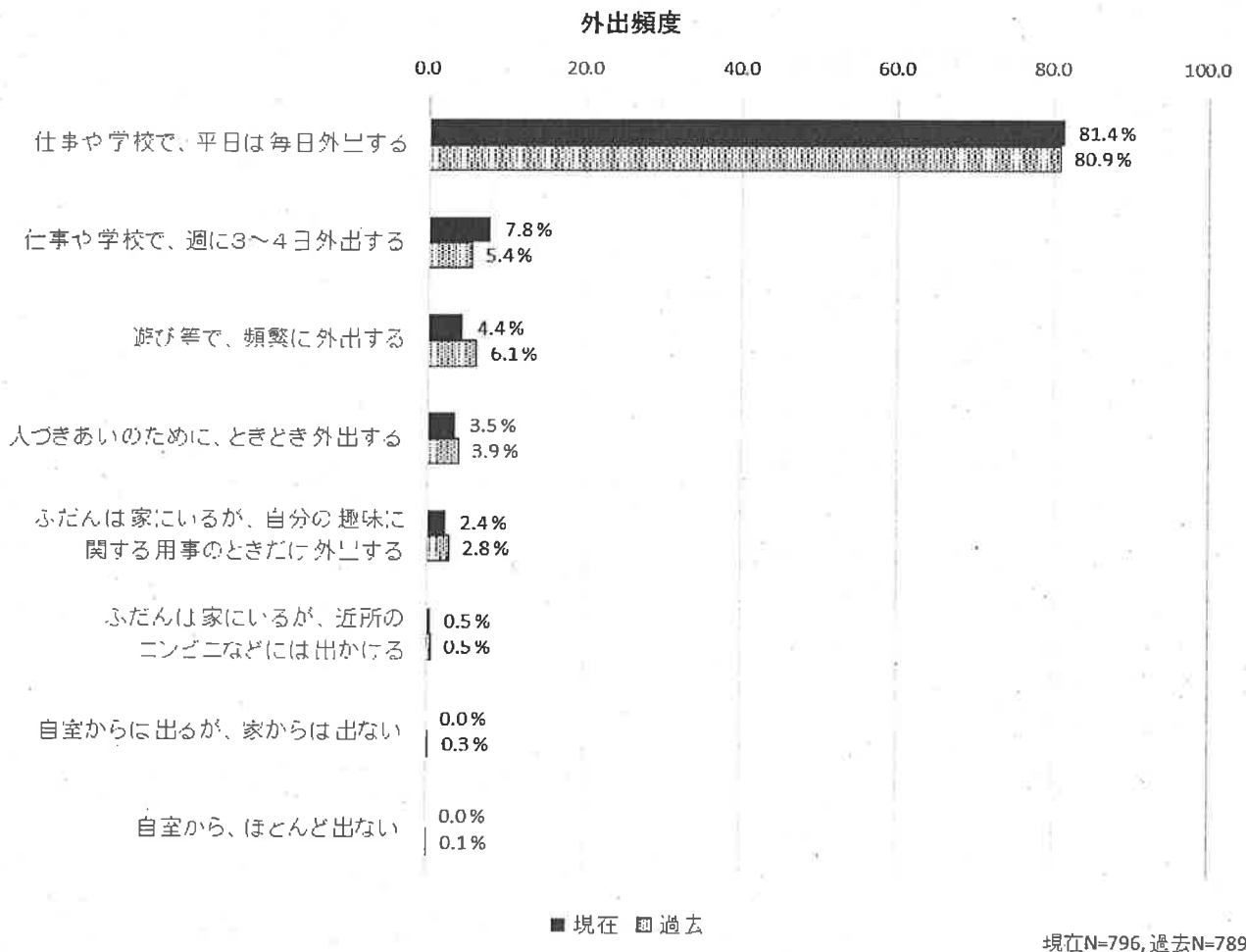


生きづらさについて

31. 外出頻度（成人 問27）

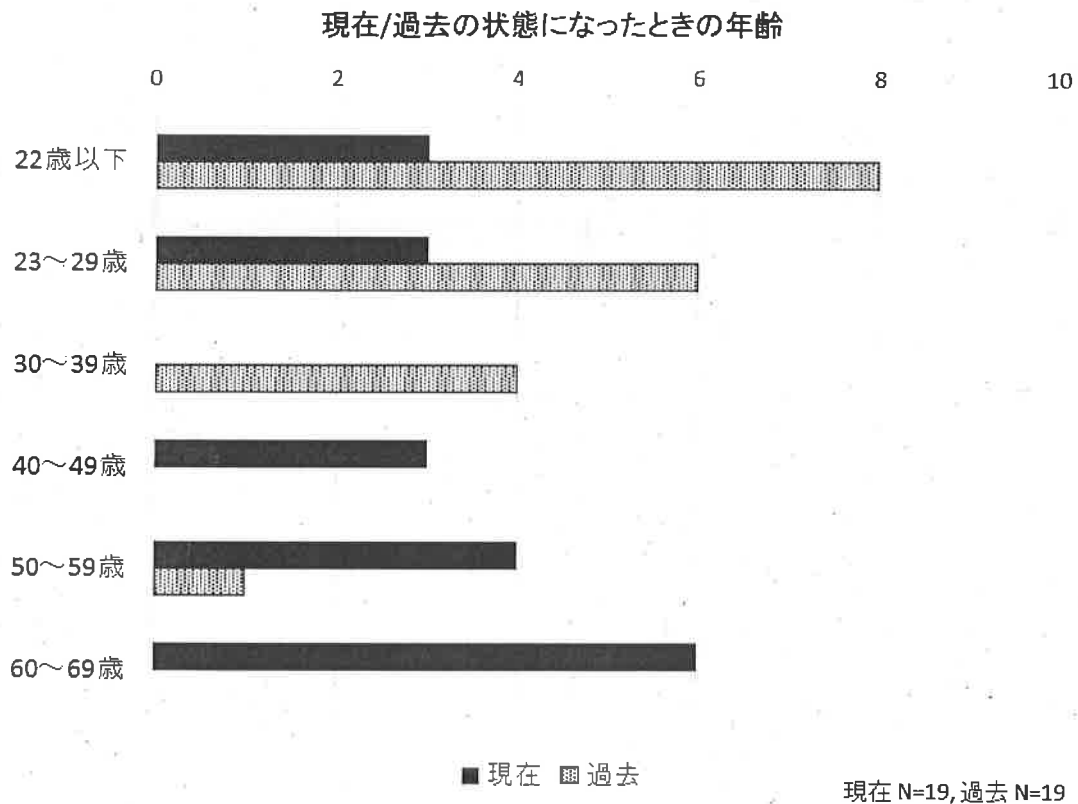
「あなたの現在の外出頻度と、過去の外出頻度はどれくらいですか」という問に対して、「仕事や学校で、平日は毎日外出する」と答えた回答者が、現在と過去ともに8割を越えた（現在、81.4%、過去80.9%）。

また、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のみときだけ外出する」、「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」、「自室からは出るが、家からは出ない」、「自室から、ほとんど出ない」といった『ひきこもり疑い』と思われる回答者は現在と過去で全体の3～4%程度確認された。



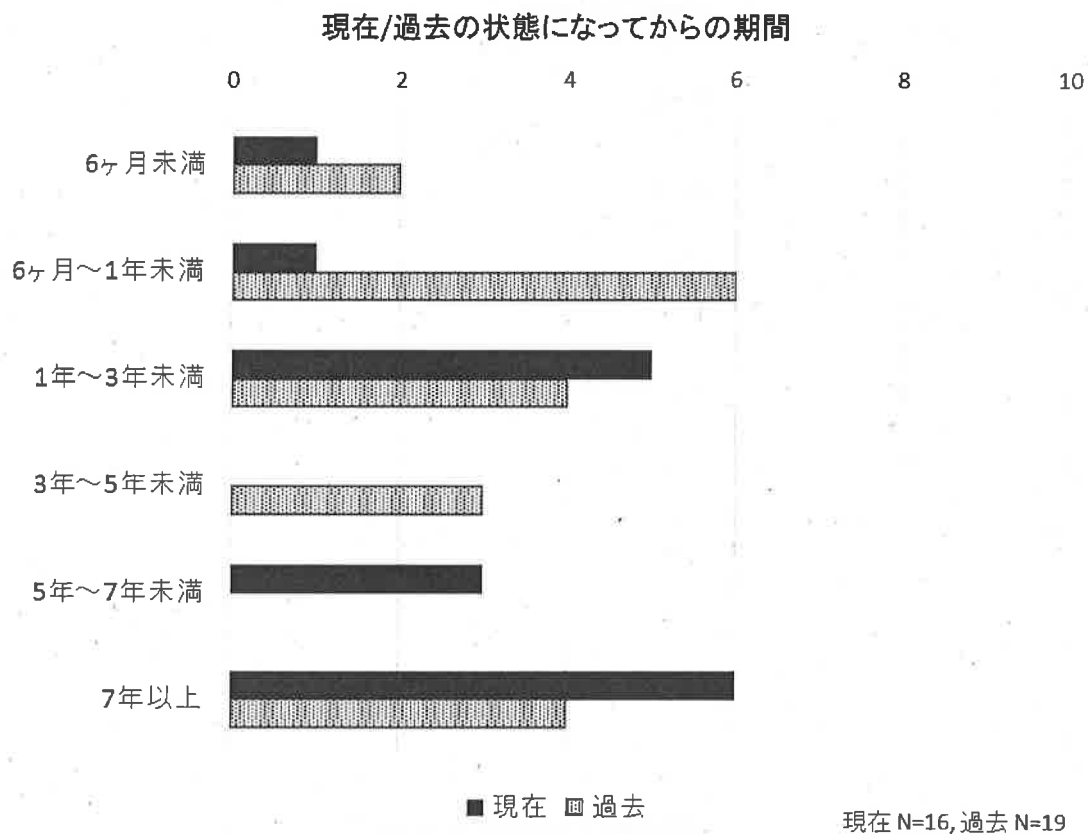
32. 現在/過去の状態になったときの年齢（成人 問 28-ア）

問 27 において『ひきこもり疑い』ありと考えられた回答者を対象に、「現在あるいは過去の状態になったのは、あなたが何歳のころですか」との質問を行った。その結果、過去に『ひきこもり疑い』があった場合では、22 歳以下から 30 歳代以下と比較的若年層のときに『ひきこもり状態』にあった経験があり、一方現在『ひきこもり状態』にある回答者は、60 歳代がもっとも多く、高齢層に多い傾向が見られた。



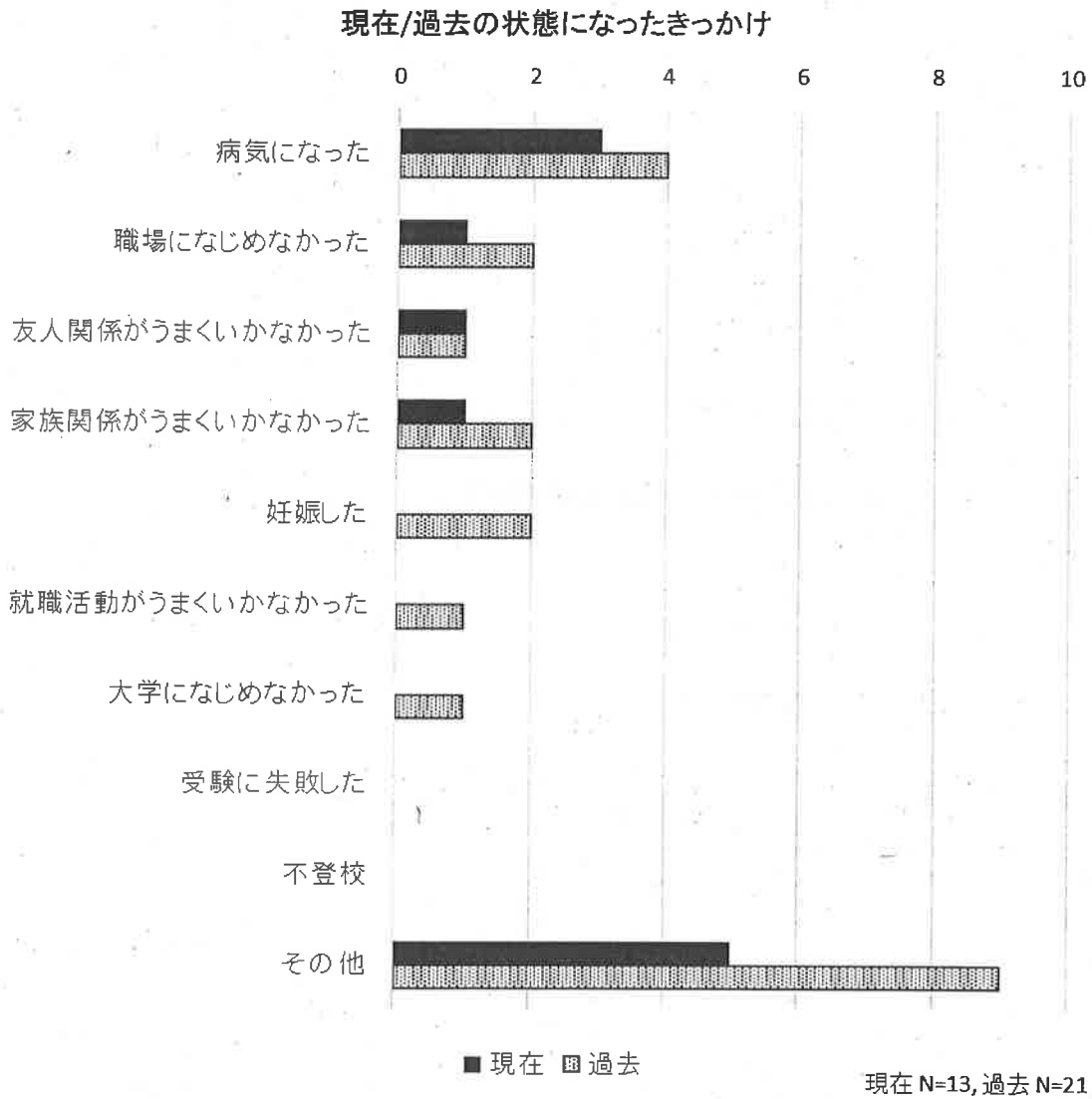
33. 現在/過去の状態になってからの期間（成人 問 28 イ）

問 27 において『ひきこもり疑い』ありと考えられた回答者を対象に、「現在の状態となってどのくらい経ちますか。あるいは、過去の状態はどれくらい続きましたか」という問に対して、現在『ひきこもり状態』にある場合では「7年以上」と答えた回答者がもっとも多く、過去に『ひきこもり状態』にあった場合では「6ヶ月～1年未満」と答えた回答者がもっとも多かった。現在もひきこもり状態にある人は、長期化している人が多いことがわかる。



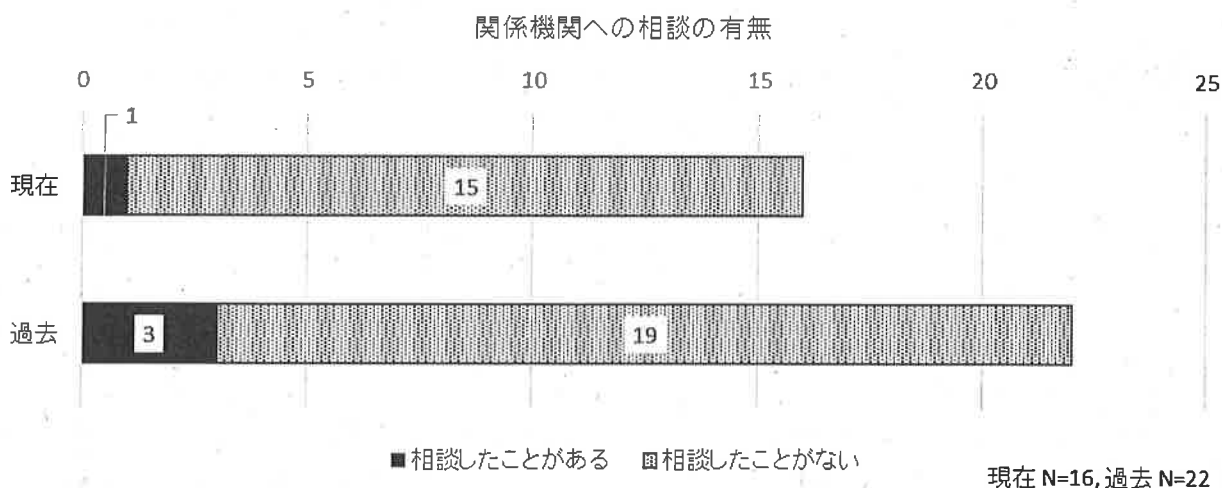
34. 現在/過去の状態になったきっかけ（成人 問 28-ウ）

問 27 において『ひきこもり疑い』ありと考えられた回答者を対象に、「現在あるいは過去の状態になったきっかけは何ですか。（あてはまるものすべてに○）」といった質問を行った。その結果、病気や対人関係の問題がきっかけとして多く見られた。「その他」がもっとも多かったが、「その他」に対する自由記述は得られなかった。



35. 関係機関への相談の有無（成人 問 28-エ）

問 27 において『ひきこもり疑い』ありと考えられた回答者を対象に、「現在あるいは過去の状態について、関係機関に相談したことはありますか」といった質問を行った。その結果、現在『ひきこもり状態』にある場合では「相談したことがある」と答えた回答者が 6.3%、過去に『ひきこもり状態』にあった場合では「相談したことがある」と答えた回答者が 13.6%であった。ひきこもり状態を経験した人のほとんどが相談機関を利用していないことが示された。



36. 相談した機関（成人 問 28-オ）

問 28-エにおいて「相談したことがある」と答えた回答者を対象に、「どのような機関に相談しましたか」といった質問を行った。その結果、回答が得られず、自由記述において「親」という回答のみが見られた。

37. 相談した結果（成人 問 28-カ）

相談した結果について回答を求めた結果、あまり役に立たなかったという回答が大半であった。

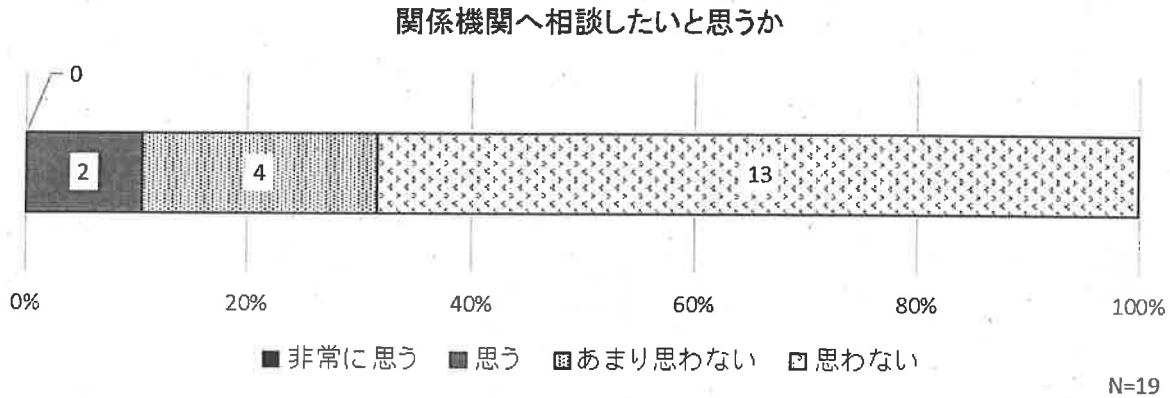
38. ひきこもり状態から回復したきっかけ（成人 問 28-キ）

ひきこもり状態から回復したきっかけについて回答を求めたところ、青少年において「スポーツをはじめたから」、「ひらき直った」、「わからない」、「新しく試してみた薬が良く効いた」、「就職のため」、「親が相談にのってくれた」、「他大学へ編入したから」、「友達となかよくなった」という回答が見られた。

また、成人において「家の中での生活に満足していた」、「タイミング」、「わからない」、「家族の助言」、「子供ができた」、「時間」、「進路が決定した」、「職業訓練」、「人に話した」、「新たな友人ができた」、「大学に入った」といった回答が見られた。

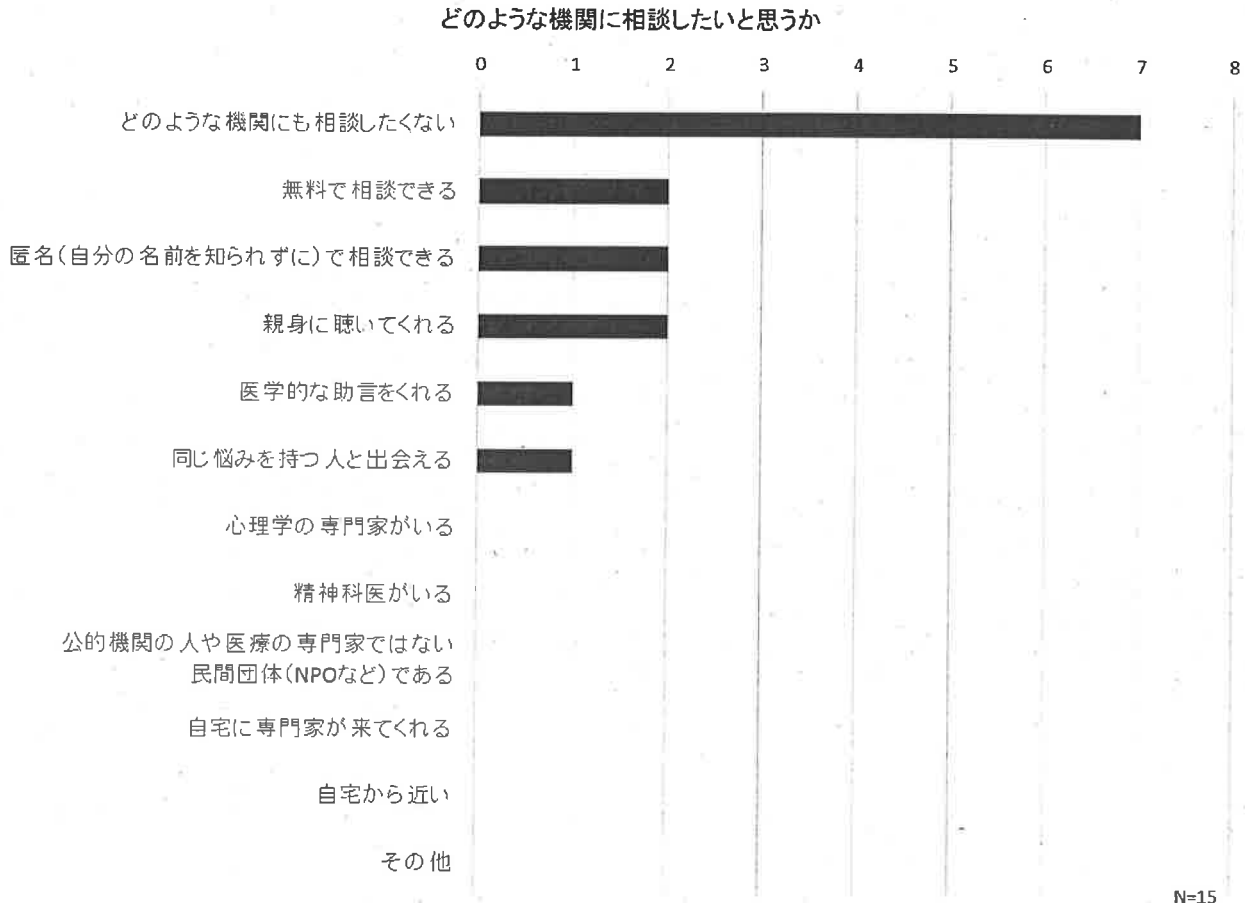
39. 現在の状態について関係機関へ相談したいと思うか（成人 問 29-ア）

問 27 において『ひきこもり疑い』ありと考えられた回答者を対象に、「現在の状態について、関係機関に相談したいと思いますか（あてはまるもの1つ〇）」といった質問を行った。その結果、「思わない」が 68.4%と最も多く見られた。



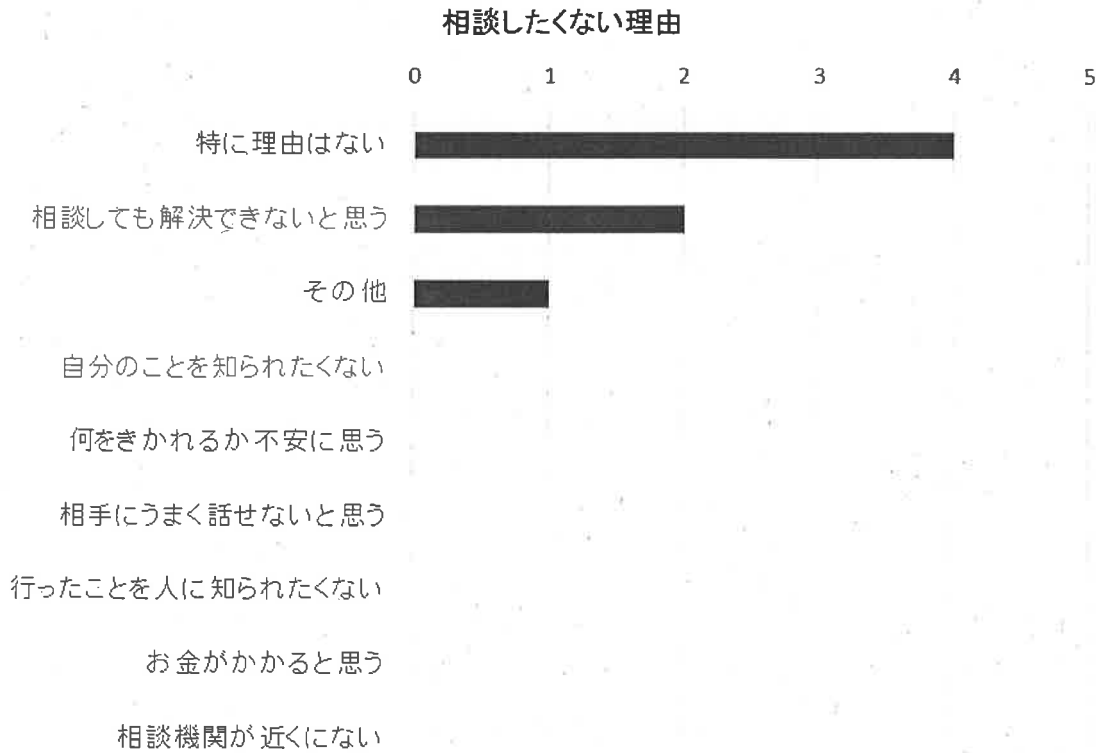
40. どのような機関に相談したいと思うか（成人 問 29-イ）

問 27 において『ひきこもり疑い』ありと考えられた回答者を対象に、「現在の状態について関係機関に相談するとすれば、どのような機関になら、相談したいと思いますか。（あてはまるものすべてに〇）」といった質問を行った。その結果、「どのような機関にも相談したくない」が最も多く見られた。



41. どのような機関にも相談したくない理由（成人 問 29-ウ）

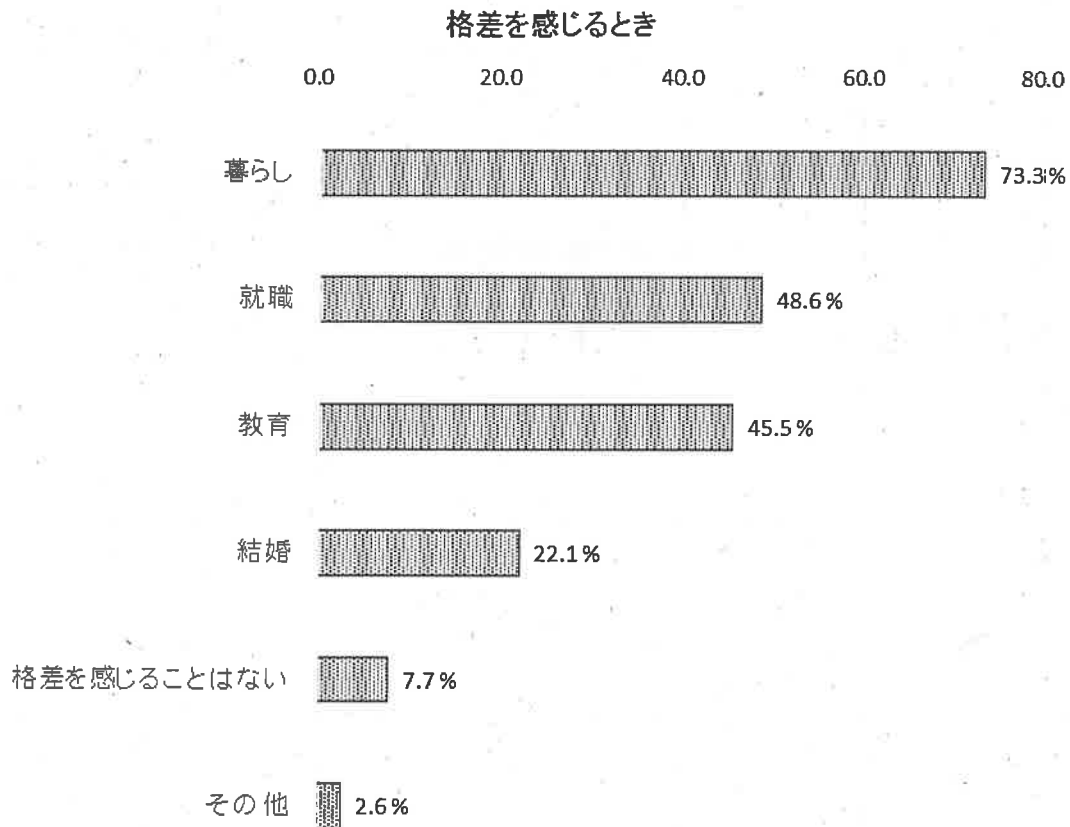
問 29-イにおいて「どのような機関にも相談したくない」と答えた回答者を対象に、「相談したくないと思う理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）」といった質問を行った。その結果、「特に理由はない」が最も多く見られた。



N=7

42. 格差を感じる時 (成人 問 30)

「あなたは、どのような時に社会の格差を感じますか。(あてはまるものすべてに○)」に対して、「暮らし」と回答した人が73.3%と最も多く、次いで「就職」、「教育」について格差を感じる人が約半数となった。その他として、成人において収入などの経済的面についての回答が見られた。



N=607